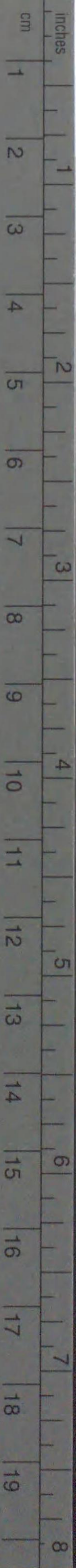


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

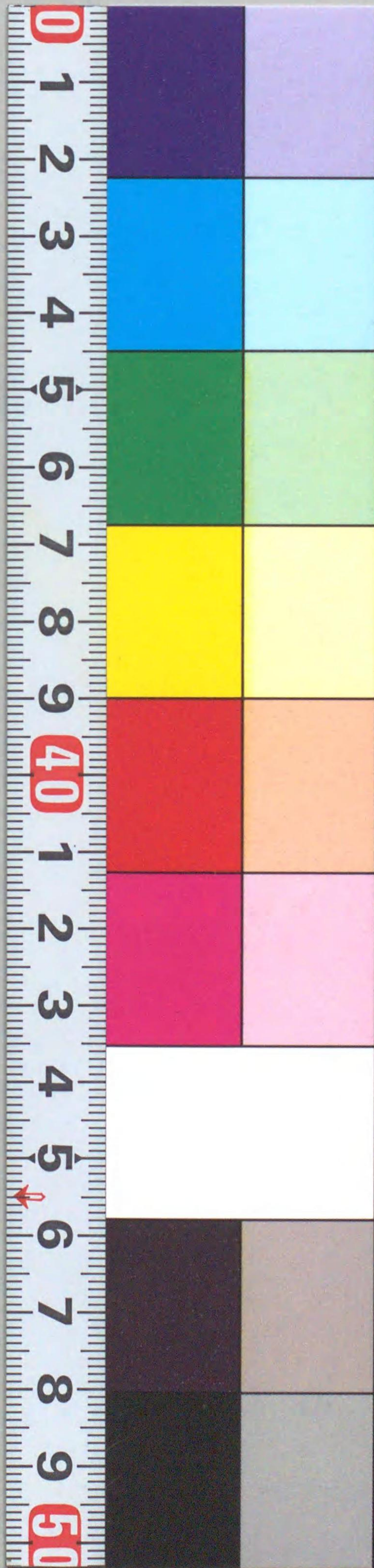
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



Y994  
J10300

每全曜日發兌

明治二十六年二月三日

# 理財科講義

第十六卷

## 專修學校





Y994-J10300

目 録

銀行論	法學博士	田尻稻次郎
實際統計學	吳文聰	
經濟史論	法學士	伴野乙彌
私犯法	法學士	中川一介
商法 <small>(第一編第一章 商事)</small>	法學士	鈴木宗言
歷史學	文學博士	坪井九馬三
二十年來經濟世界之景況	法學博士	田尻稻次郎
專修學校理財學會演說	吳文聰	
日本銀行と日本ノ經濟及ヒ財政トノ關係	文學士	阪谷芳郎



佛蘭西土地銀行ノ其尙ホ巴里土地銀行タリシトキ其資本ハ僅ニ二百萬圓ナリ  
 シト雖モ漸次其事業ノ擴張スルニ從ヒ其資本額ヲ増加シ西曆千八百六十九年  
 ニ至リ其額千八百萬圓トナリ之ヲ十八萬株ニ分チ一株ヲ百圓トス銀行ノ事業  
 ハ重ニ證券ノ賣却代價ヲ以テ經營スルモノナレハ資本額ハ之ヲ準備トシ其高  
 ハ尠クトモ現發行ノ證券高ノ二十分ノ一タルヲ要ス故ニ佛蘭西土地銀行ハ其  
 資本高ニ比シテ三億六千萬圓ノ證券ヲ發行スルヲ得ヘキモノトス  
 右資本金ノ外佛蘭西土地銀行ハ當座勘定ヲ以テ千六百萬圓マテハ預リ金ヲ爲  
 スコトヲ得而シテ不合格者(未丁年者ノ如キ者ヲ云フ)區及會社ニ屬スル資本ハ  
 證券ノ購買ニ使用スルコトヲ得ルモノトス



### 第十一章 人民銀行規約並ニ土地銀行會社條例

國家所動ノ資本ハ中央銀行アリテ之ヲ處理シ所靜ノ資本ハ人民銀行等アリテ之ヲ處理シ以テ唇齒相助ケ輔車相賴ルノ便ナカルヘカラサルハ已ニ之ヲ論究シ前二章ニ於テ人民銀行ト土地銀行ノ事ヲ陳述セリ其所動ノ資本ヲ處スル所ノ中央銀行ノ制度ノ如キハ國家經濟上最モ著シキ現象ヲ現ハスモノナルニ由リ夙ニ世人ノ注意スル所トナリ或ハ根本ニ溯リ制度ノ得失ヲ論シ或ハ枝葉ニ涉リ業務ノ取扱ヲ論シ殆ト餘ス所ナキカ如シト雖モ所靜ノ資本ヲ處理スルノ方法ニ於テハ事頗ル鎮靜ニシテ活潑花ヤカナルト能ハス自然世人ノ注意ヲ引クト薄キノ傾向アルニ似タリ然レモ國家經濟ニ關係アルハ彼ヲ重シトシ是ヲ輕シトスル能ハス兩者其用ヲ異ニスト雖モ輕重ニ至リテハ敢テ差アルトナシ殊ニ我國ニ於テハ未タ獨佛等ニ於ケル人民銀行土地銀行ノ如ク特ニ農業及小事業者ヲ幫助スル會社ノ發達ヲ見ス我カ經濟ノ進歩上他日此等ノ會社設立ヲ要スルハ毫モ疑ナ容ル、能ハス今日ニ於テ其詳細ノ點ヲ攻究スルハ頗ル有用

二

三

ノ業タルヘシ故ニ銀行論講義ヲ終ルニ臨ミ獨佛兩國ニ於テ現ニ行ハル、所ノ規約條例ノ條項ヲ示サントス其條項ニ付キテノ得失ニ至リテハ銀行論總體ヲ講究セシ後ハ自ラ判然スヘクシテ復タ敢テ之ヲ論究スルコトヲ要セサルナリ

### 人民銀行規約例範

- 一、凡性質篤實ニシテ自ラ生計ヲ立ツル者ハ株主タルヲ得
- 一、株主ノ申込ハ取締役ニテ取捨ス但シ取締役ハ實務員ト與ニ各銀行ノ事務ヲ管理スルモノナリ
- 一、申込人ハ自己ノ利益ニ反對スル取締役ノ決議ニ付キ會員總會ニ申出ヲ爲スコトヲ得
- 一、各會員ハ資本金ノ内ニ毎月定額ノ拂込ヲ爲スヘキモノトス
- 一、拂込ノ金高ハ寒貧ナル職工ニテモ株主トナルコトヲ得ヘキ小額ノモノタルヘシ
- 一、株券額面ノ金高ハ十「ターレル」ニ「ターレル」ハ凡六十錢ヨリ二百「ターレル」マテ



- ト爲スト雖モ通常三十「タ」レ「ル」ヨリ六十「タ」レ「ル」マテニ止ム
- 一、株金ハ月賦ヲ以テ之ヲ拂込ムモノトス尤モ會員ノ都合ニ據リ最低最高定限以內ハ何程ニテモ増額スルヲ得
- 一、會員ハ其望ニ因リ一時ニ其株金ヲ拂込ムヲ得
- 一、各株主ハ一株以上ヲ所持スルヲ得ス(是ハ寡數ハ人ナ元金ヲ壟斷スルコトヲ防ク爲メニ設ク)
- 一、會員ハ何時ニテモ其都合ニ因リテ退會スルヲ得ルト雖モ豫メ其趣ヲ取締役ニ申出ツヘシ但シ其退社ハ當該年度閉鎖迄ハ之ヲ許サス
- 一、凡會員ハ其不徳義或ハ負債辨償ノ道ナキ廉ニ付キ取締役ノ動議ニ由リ會員總會ニテ除名セラル、コトアルヘシ
- 一、退會若クハ除名セシ會員ハ拂込株金ト既得ノ利息金トノ外ハ權利ヲ有セス尙ホ會員トシテ負擔スヘキ責任ハ二年間之ヲ繼續スルモノトス
- 一、會員死去ノ場合ハ其相續人ハ會員タルノ權利ヲ襲承スルヲ得ス但シ死者貸借勘定ノ決算ハ相續人ニ於テ之ヲ受クルモノトス

### 人民銀行管理法

- 一、各銀行ノ事務ハ取締役ト實務員トニテ管理ス就中取締役ハ事務總體ノ監督ヲ爲シ實務員ハ庶務ニ從事ス又取締役ハ總會ニテ選舉セラレ總會ト實務員トノ間ニ立チテ事ヲ調理スル者ニテ概シテ總會ハ該會社ノ將來ニ關スル大問題ヲ決定シ取締役ト實務員トハ常務ヲ辨理スルモノナリ
- 一、人民銀行ノ資本ハ二種ニ分レ一ヲ運轉資本トシ一ヲ準備トス運轉資本ハ諸會員ノ定期拂込金ヨリ成リ該拂込金高ヲ限リ各會員ニ貸付ヲ爲ス又會員ハ其拂込金ノ全額若クハ一部分ヲ減少シ若クハ引出シ若クハ第三者ニ讓渡スルヲ得
- 一、準備ハ「タ」レ「ル」ヨリ五「タ」レ「ル」マテノ手數料ト純益金高トニ割合ヒタル積立金ヲ以テ成リ其現在資本ニ對スル比例ハ一様ナラスト雖モ運轉資本並ニ準備合計高ニ對シテハ五分乃至六分ニ相當シ其負債高ニ對シテハ八分乃至一割ニ登ル此資本ハ會社解散ノ際會員ニ配分スルノ外ハ一切使用セサル



モノナリ

一、會社ノ財源ハ積金及借入金ニ係リ此種ノ金ニ現金ヲ加ヘテ營業資本ト爲ス  
一、會員ハ定期拂込金ニ付キ利息ヲ得ス總純益ノ内ヨリ平均凡一割二分ノ配當ヲ受クヘシ

一、右配當支拂ハ拂込濟株金ニ限ルモノニテ一部分ノ拂込ヲ爲シタル株金ニ係ルモノハ金額拂込マテ拂込人ノ貸方勘定ニ記入スルモノトス

一、凡預金ハ半箇年若クハ一箇年ヲ限期トシ借入金ハ長年期會員ヘノ貸付ハ短期ヲ用フ

一、各會員ヘハ抵當ヲ要セス其所持株金ヲ限り貸付ヲ爲ス該株金高ヲ超過シタル貸付ヲ爲スハ取締役及實務員ノ見込ニ因ル尤モ此場合ニハ抵當ヲ要ス若シ又借主自ラ抵當ヲ出タス能ハサレハ其借用證書ハ二名ノ會員ノ裏書アルヲ要ス而シテ貸金ノ利息ハ小銀行ヨリ少シク低利ナリ

左ニ掲載スルモノハ西曆千八百五十九年以來同千八百六十八年マテノ人民銀行ノ發達ヲ示スモノナリ

西曆年次	銀行數	會員數	運轉資本並ニ準備	預リ金高	借入金高	貸付金高
千八百五十九年	八〇	一八、六七六	二七六、八四六	五二二、三五〇	五〇一、七九五	四、一三一、四三六
千八百六十年	一三三	三一、六〇三	五八八、八五七	一、三三二、八九三	一、〇六九、八三三	八、四七八、四八九
千八百六十一年	一八八	四八、七六〇	九〇七、二二三	二、六四九、〇三六	一、九八三、四四一	一六、八七六、〇〇九
千八百六十二年	二四三	六九、二〇二	一、三三三、四三八	二、七四七、五七七	三、四四一、〇三三	二二、六七四、二六一
千八百六十三年	三三九	九九、一七五	二、〇二二、二五六	三、四一六、二二〇	五、六四一、八二〇	三三、九一七、八四八
千八百六十四年	四四五	一三五、〇一三	三、二五二、七五七	五、三五五、二六五	七、四〇一、三二七	四八、一四七、四九五
千八百六十五年	四九八	一六九、五九五	四、八五二、五五八	六、五〇二、一九七一	一、一五四、一七九	六七、五〇九、九〇三
千八百六十六年	五三二	一九三、七二二	六、三二九、五〇四	八、七二六、五一八一	一、一六九、〇一一	八五、〇一〇、一四五
千八百六十七年	五七〇	二二九、三五八	七、五〇七、〇八五	一一、三七八、五七〇	一、三三一、〇六九	一一一、二五二、一三四
千八百六十八年	六六六	二五六、三三七	一〇、三三一、四五七	一六、二二一、五九二	一、七四八、七四七	一三九、二四七、七九三

佛國土地銀行會社條例 (西曆千八百五十二年二月廿八日發布)

第一章 土地銀行會社



第一條 凡シ不動産ノ所有主ニシテ書入質ニ因リ借金セント欲スル者ニ長期年賦拂ノ方法ヲ以テ辨濟ノ便ヲ與フルヲ目的トスル土地銀行會社ハ參事院ノ議ヲ經タル共和大統領ノ布告ヲ以テ許可ス

然ル上ハ會社ハ此布告ヲ定ムル權利ヲ有シ又同規則ニ從フヘキモノトス

第二條 右許可ハ資金借入ノ會社ト資金貸付ノ會社トヲ問ハス均ク下付スヘシ

第三條 土地銀行會社ノ營業ハ許可ノ布告ニテ定ムル土地區畫内ニ限ルヘシ

第四條 興業貸付會社ハ負債證書ヲ發行スル權利ヲ有ス

第五條 土地銀行會社ノ事業ヲ補助スルカ爲メ政府及地方廳ハ若干ノ負債證書ヲ買取ルコトヲ得

國庫カ此費用ニ充ツル金ノ最高額ハ歲計豫算法ヲ以テ毎年之ヲ定ム

各會社ヘノ分配ハ許可ノ布告ヲ以テ之ヲ定ム尙ホ本年一月二十二日ノ布告第七條ニ依リテ土地銀行會社設立ノ爲メニ備ヘタル千萬フラン(二百萬圓)ヨリ會社ニ付與スルモノモ亦許可ノ布告ヲ以テ之ヲ定ム

次ニ出生百若クハ千ニ付死胎分娩若干公生兒又ハ私生兒百ニ付死胎分娩若干ト比例シ死産ノ何レニ多キヤヲ知ルコト

次ニ一胎一兒一胎二兒一胎三兒四兒等ノ區別ヲ爲シ受胎ノ方ヲ視ルコト

又第一子第二子第三子第四子等ノ區別ヲ爲シ之ト死産トノ關係ヲ觀察シ或ハ

出生ノ順番ト男女ノ關係又ハ生兒ノ性ト父母ノ年齢トノ關係ヲ觀察スルコト

又出生月ニ區別シテ其多少ヲ知リ私生死産ヲ月別ト爲シテ其原因ト事情ト

ヲ顧ミ其他公生私生ノ兒數ト母ノ年齢トヲ對照考究スルカ如キ其法少ナカラ

ス

然リ而シテ出生ノ總數ヲ總人口ニ對比スルコトハ同一國ノ累年事實ニ在ッテ

ハ其誤リ甚シカラサレト年齢ノ分配其他種々ノ事狀異ナル各國ヲ採リテ互ニ

相比較セントスルニ方リテハ甚不完全ノ比較タルヲ免カレス故ニ斯ル場合ニ

於テハ受胎年齢ノ婦女ノミヲ取リ其百人若クハ千人ニ付キ出生何人ト計算

スルヲ以テ當レリトス其受胎年齢ナルモノハ國ニ由リ人ニ由リ同シカラサレ



ト凡ソ十五年以上四十五年或ハ五十五年以下ナリトス即チ出生ノ届ハ明治十九年内務省令第十九號第一條ニ據ルモノニシテ生産アリタル時ハ十日以内ニ届ケ出ツヘシト云フニ基クナリ是ヨリ本邦ノ事實ヲ掲ケ之ヲ示サン

年	紀	男	女	計	人口千ニ付出生	女ノ出生千ニ付男
明治五年		二九〇、八三六	二七八、一九八	五六九、〇三四	一七一	一〇四五
同六年		四〇七、〇六二	三八八、一七一	七九五、二三三	二三六	一〇四八
同七年		四二六、八八四	四〇九、二二九	八三五、一一三	二四六	一〇四三
同八年		四四六、五一八	四二二、六〇八	八六九、一二六	二五三	一〇三三
同九年		四六四、二九九	四三八、六四七	九〇三、九四六	二六一	一〇五八
同十年		四五五、六五九	四三四、八二九	八九〇、五一八	二五五	一〇四八
同十一年		四四九、七四四	四二五、一三九	八七四、八八三	二四五	一〇五八
同十二年		四四九、六四六	四二七、〇七三	八七六、七一九	二四四	一〇五三
同十三年		四五二、三二七	四三一、二五七	八八三、五八四	二四三	一〇四九
同十四年		四七六、八六四	四六四、四七九	九四一、三四三	二五六	一〇二七

同十五年	四七四、一八九	四四八、五二六	九二二、七一一	二四九	一〇五七
同十六年	五一二、五二九	四九二、四六〇	一、〇〇四、九八九	二六八	一〇四七
同十七年	四九七、一〇四	四七八、一四八	九七五、二五二	二五八	一〇三九
同十八年	五三三、七六三	五〇〇、八一	一、〇二四、五七四	二六九	一〇四六
同十九年	五三六、二四四	五一四、三七三	一、〇五〇、六一七	二七三	一〇四二
同二十年	五四二、〇四三	五一六、〇九四	一、〇五八、一三七	二七一	一〇五〇
同廿一年	六〇〇、一八四	五七二、五四五	一、一七二、七二九	二九六	一〇四八
同廿二年	六一七、八六三	五九二、〇四七	一、二〇九、九一〇	三〇二	一〇四三

表中明治五年ノ數ハ二月朔日ヨリ十二月二日マテ凡ソ十箇月ノモノナリ(改曆アリシカ爲ナリ)明治六年ノ數中ニハ佐賀縣下ノ數ヲ缺ク又明治五年ヨリ同十二年マテハ沖繩縣ノ數ヲ缺ク

本邦出生者ノ數ハ表面上右ノ如シト雖モ其實ハ右出生者ノ數ハ唯本籍所在ノ地方へ届ケ出テタル數ニシテ其實ヲ顧ミレバ年々各地ニ出生届漏ノ者多數アリテ後日ニ至リ追年就籍スル者アリ今就籍者ノ出生年日ヲ知り得タル者ヲ掲



クレハ左ノ如ク

明治五年後出生	八〇、九七二	五三、六〇四	二二、五六一	一一、四〇三	一六八、五四〇
同十五年出生	三三、六一四				三三、六一四
同十六年出生	三九、〇九六	二〇、七二七			五九、八二五
同十七年出生	四七、五四八	二二、二七八	六、九六七		七六、七九三
同十八年出生	六七、四八三	二七、〇二〇	七、七三〇	三、七七八	一〇六、〇一一
同十九年出生		四〇、三六四	九、一七一	四、三三一	五三、八六六
同二十年出生			九、四九三	四、三三七	一三、八二〇
同二十一年出生					六、二〇四
計	二六八、七二三	一六三、九九五	五五、九三三	三〇、〇四三	五一八、六七三

右ニ由テ出生兒届漏ノ如何ニ多キヤヲ知ルニ足レリ  
 余ハ此ニ出生届漏ヲ各年ノ出生數ニ加ヘ重複ヲ忍ンテ之ヲ左ニ示サン  
 年 紀 年々ノ出生 其年ノ届漏 計 人口千人  
 二 付出生

明治十五年	九二二、七二五	三三、六一四	九五六、三二九	二五、七
同 十六年	一、〇〇四、九八九	五九、八二五	一、〇六四、八一四	二八、二
同 十七年	九七五、二五二	七六、七九三	一、〇五二、〇四五	二七、五
同 十八年	一、〇二四、五七四	一〇六、〇一一	一、二三〇、五八五	二九、三
同 十九年	一、〇五〇、六一七	五三、八六六	一、一〇四、四八三	二八、五
同 二十年	一、〇五八、一三七	一三、八二〇	一、〇七一、九五七	二七、四
同 二十一年	一、一七二、七二九	六、二〇四	一、一七八、九三三	二九、七

本邦出生歩合ハ右掲クル所ノ如シ之ヲ海外各國ニ比シテ其多少如何ハ知ラザル可ラナルコトニシテ此ニ論ス可キ者ノ如シト雖モソハ暫ク之ヲ後段ニ譲リ出生死亡婚姻ノ三者ヲ併セテ論斷スルコト、ナシ此ニハ本邦公生私生兩者ノ多少ヲ示スコト、ス可シ

公生及私生 明治六年一月十八日第二十一號布告ニ妻妾ニ非サル婦女ニシテ分娩スル兒子ハ一切私生ヲ以テ論シ其婦女ノ引受タルハキコト但シ男子ヨリ己レノ子ト認メ候上ハ婦女住所ノ戸長ニ請フテ免許ヲ得候者ハ其子其男子ヲ



父トスルヲ得ヘクコト、アリ左レハ公私ノ別ハ早ク定リテアレハ明治十八年以前ハ出産中公生私生ノ區別ナカリシ故ニ明治十九年以降ノ事實ヲ掲クヘシ

年 紀

男 公生

女

男 私生

女

公生千ニ付私生

明治十九年	五二六、一四九	四九三、一四六	二〇、〇九五	二二、二二七	四〇・九
同二十年	五一七、一一三	四九一、二五七	二四、九三〇	二四、八三七	四九・四
同二十一年	五六八、二五八	五四〇、七一七	三一、九二六	三一、八二八	五七・五
同二十二年	五八三、四三七	五五七、九七五	三四、四二六	三四、〇七二	六〇・〇

右ノ數ニ就テ之ヲ視レハ私生兒ノ數ハ年々ノ増加ヲ表スルモノナリ然レトモ私生兒ナルモノハ餘リ確實ノモノトハ思ハレス其故ハ公生トハ正式ノ結婚ヲ取り結ヒタル父母ノ間ニ生レタル子ニシテ私生トハ禮ニ由リテ婚姻ヲ行ハサル間ニ生レタル子ナレハ誠ニ明亮ナルカ如クナレトモ實際ニ於テハ妾ニ設ケタル子又ハ公然妾ニアラサル婦女ニ設ケタル子ハ父之ヲ子トシ認ムレハ庶子トナリ妻妾ニアラサル婦女ノ子ニシテ父タル者ノ其子ト認メサル者ノミ私生

兒トナルナリ故ニ父ノ認非認ハ私生兒ノ數ノ増減ニ大關係アリト思ハル又本邦民法ニハ其子女ハ嫡庶及私生ノ三者ニ別カル然ルニ之ヲ外國ノ事實ニ比較スル場合ニハ庶子ハ之ヲ私生兒中ニ加フ可キモノ、如シ今一層實際ヲ考究スルニアラサレハ其増加ハ果シテ實際ノ増加ナルヤ否ヲモ明言シ難シ況ンヤ各地風俗ヲ異ニシ或ハ之ヲ隱蔽シ或ハ之ヲ恥ツルコトナリ或ハ避妊ノ術ニ長シ又ハ他ノ自然ニ反スル習俗アルモ知リ難ケレハナリ

左ニ二萬五千以上人口ヲ有スル都會ノ私生兒死産及死亡ノ多少ヲ示サン是レ大ニ講究ノ價値アルモノナリ

市街名	公生千ニ付私生	生産千ニ付死産	人口千ニ付死亡
函 館	七九〇・一	一五二・〇	三二・〇
神 戸	三二七・九	一九二・九	三〇・一
難 波	三一八・三	七四・三	四〇・三
那 覇	三一八・二	〇九・九	〇七・六
大 阪	二九四・一	九六・三	二四・五



堺	二六七九	二八三	二六四
岡山	二五一三	一六四二	二二二
長崎	二四二四	一二七一	二四四
横濱	二二一五	一五二九	二一四
大津	二〇五一	二三七七	二七三
京都	一七五二	一一四五	二一九
高松	一六一七	八三三	三〇一
鳥取	一五三三	一二六七	一九二
姫路	一四九三	一三九八	一六三
名古屋	一四五六	一六四七	二〇三
和歌山	一四〇四	一二六六	二三九
新潟	一三四五	一三六四	二四六
松江	一二八九	一一六六	二三三
岐阜	一二五二	一〇六四	一八六

ヲ制定シ以テ之カ制限ヲ設ケタリ即チエトシ王即位ノ第一年ノ條例ニ云ク(一)國王ハ三十一年ヨリ永キ借地權ヲ許スコト能ハス(二)其借地ハ滿期後再ヒ同一ノ人ニ繼續セシムルヲ得ス(三)若シ國王カ帝室財産ノ一部ヲ割テ人ニ與フルコトアルモ其贈與ハ國王ノ在位中ノミ有效ナリ云々ト而シテ此第三ノ適用ハチヤトナル氏ノ實例ニ依テ明知スルヲ得ヘシ元來此チヤトナル氏ハエトシ王ニ拔擢セラレ貴族ニ列セラレタル人ナリ或戰爭ノ際佛國ノ土地ヲ略取シタル賞トシテ毎年五千磅宛永久ニ贈與セント欲シ女王ハ之ヲ國會ニ請求シタリシニ國會ハ之ヲ決議シテ云々毎年五千磅ヲ限リ國王ノ在位中與フルハ可ナリ然レトモ是ヨリ永キニ過ク可カラス若シ然ラサルトキハ帝室財産ニ影響ヲ及ホシ遂ニ之ヲ減盡スルノ虞アリ云々トテ決議ヲナシ以テ條例ヲ適用ナセリ

十七世紀ノ初メニ在テ帝室財産ヨリ生スル利益ハ僅ニ五千七百磅ニ過キサリシカ爾後漸ク勞働者ノ賃銀騰リ從テ地代モ高上シタルガ爲メ十八世紀ノ初ニ至リ帝室ノ收入増シテ四萬磅ノ多キニ達シ其後順次騰上シテ今日ニ殆シト十倍スルニ至レリ然レトモ帝室財産ヨリ生スル所ノ利益ノミニテハ到底古來ヨ



リ定リタテ帝室ノ支出ヲ維持スルコト能ハサルヲ以テ遂ニ國王ハ國會ニ請求  
 シテ新ニ帝室費ヲルモノオ各帝王即位ノ始メニ確定シ之ヲ以テ帝室ニ關スル  
 種々ノ支出ヲ辨スルコトトナリ以來帝室財産ノ關係一變シテ殆メト國有財産  
 ノ一部分ヲナシ帝室ノ費用ハ全ク國家ノ經費中ヨリ支出スル組織トナリタリ  
 斯ル變更ヲ生シタル所以ハ一ハ帝室財産ノ衰滅ヲタルニ由ルト一ハ英王ノ血  
 統錯亂シテ其眞實ノ系統ヲ推尋スレハ國王ハ必スシモ帝室財産ノ相續者ナリ  
 ト云フ能ハサルニ至リタルニ由ル

國王ノ帝室財産處分權ヲ制限シタルハ單ニ英倫土ニ在ル財産ニ限り其愛蘭土  
 ニ於ケル帝室財産ハ依然帝王ノ隨意ニ處分シ得ルヲ以テ國會モ復タ之ヲ奈何  
 トモスルコト能ハサリキ故ニ國王ハ自家ノ寵臣ヲ賞スルニ往々愛蘭土ノ土地  
 ヲ以テ之爲メニ屢不幸ノ事變ヲ醸生シタルコトハ之ヲ歴史ニ徵シテ明カナリ

### 公債

公債ノ實例及ヒ其應用ノ模範ヲ歐洲各國ニ顯示シタルハ和蘭國ヲ以テ始トス

蓋シ和蘭ニ於テ公債ヲ募集シ未來ノ利益ヲ以テ其元金ト利息トヲ償還スルノ  
 制度ヲ立タルヨリ以來歐洲各國續々此制度ニ倣テ或ハ租稅或ハ海關稅ヲ擔保  
 トシテ金錢ヲ借入ル、ノ方策ヲ實行スルニ至レリ英國ニ在テハエドワード三  
 世ノ時伊太利ノフロレンスノ銀行家ニ適當ノ保證ヲ與ヘテ巨額ノ公債ヲ興セ  
 シラ國債募集ノ濫觴トス然レトモ其後英王ハ此條約ヲ破リ其公債ヲ償還セザ  
 リシ斯ル橫暴ノ所爲ハ獨リ英王ノミニアラスシテ當時ノ各國政府ハ往々其債  
 主トノ間ニ於ケル條約ヲ破リタルコト敢テ其例ナキニ非ス今其例證トシテ見  
 ルヘキハ近時倫敦ノ市人申往古ノ公債證書ヲ提出シテ政府ニ之カ償還ヲ迫リ  
 タルコトアリシ現政府ハ之ヲ採用セサリシト雖モ往時ノ政府カ其償還ヲナサ  
 ヲリシ事實ヲ推知スルニ足レリ又一千五百九十六年西班牙王ヒリッポ第二世カ  
 其公債償還ヲ拒絕シタルカ西班牙人ノ信用ハ全歐洲ニ墜タリシト雖モ一時其  
 債主中ノ多數ヲ占メタル伊太利ノゼノワ州ハ幾シト破産スルノ不幸ニ陥リタ  
 リ  
 抑國債ナルモノハ信用アル國ニ於テ之ヲ募集セント欲セハ幾許鉅額ノ金ト雖



モ忽チ之カ應募者ヲ得テ其目的ヲ達スルコト容易ナリト雖モ若シ其國ニシテ信用ヲ缺損スルノ行爲アリタルトキハ之ヲ回復スルコト甚々難シ殊ニ外債ヲ募集シタル時ニ於テ或ハ其債主ヲ欺キ或ハ其償還ヲ拒絕スルカ如キ不信用ノ行爲ヲナシタルトキハ其國ハ殆ント永久外債ヲ募集スルノ能力ヲ失フニ至ラシ前ニ實例トシテ擧ケタル和蘭國カ當初如何ナル方法ニ依リ又如何ナル結果ヲ示シテ全歐洲ヨリ外債ヲ募集シタルヤヲ研究センニ其獨立時代ニ遡テ之ヲ尋テサレハ其眞況ヲ知ル能ハス蓋シ和蘭カ始メテ獨立ノ反旗ヲ翻ヘシタルハ一千五百七十二年ニシテ遂ニ其獨立ヲ全歐洲ノ各國ニ認諾セラレタルハ一千六百九年ナリ此數十年ノ戰爭ニ打テ勝テ獨立ヲ遂ケシメタルハ嘗テオレンジ公タリシ英王ウヰリヤムノ盡力ニ依ルト雖モ其獨立戰爭ノ功績ヲ擧テ之ヲウヰリヤム一人ニ歸スルハ少シク其實ヲ得サルモノアリ其故ハ該獨立戰爭ノ正ニ酣ナル時ニ當リ常ニ國民ノ尊敬ヲ享ケ輿望ヲ荷ヒ義當サニ自國ノ獨立ヲ謀ルニ熱心スヘキ和蘭貴族ニシテ屢敵兵ニ欸ヲ通シ或ハ英國ヨリ應援兵ヲ帥ヒ來リタル將校ニシテ往々敵ノ陣門ニ降リタルモノアリ斯ク否運ニ傾キシ際毅

然奮勇ヲテ遂ニ其目的ヲ達シタルモノハ實ニ其商業者及ヒ農民ノ熱心ニ賴ル且ツ斯ノ如ク數十年ノ苦戰ヲ經テ遂ニ獨立シタル後國內ノ整備ニ銳意精勵シ百般ノ事物大ニ開發進歩シ殆ント歐洲各國ニ於ケル現時ノ開化ノ淵源ト和蘭ヲナセシモ亦農商民ナリ故ニ其獨立ニ關シテ尤モ力ヲ盡セルモノト稱スヘシ今整理中最モ著シキモノヲ摘舉スレハ第一農業ノ方法ヲ改良シ以テ十八世紀ニ於ケル全歐洲ノ農業法ノ模範ヲ示シ第二ニハ信用ノ價值ヲ全歐洲ノ商業界ニ示シアマムステルダムノ銀行ヲシテ實ニ近世商業界ノ組織ヲ發達セシムル機關トナセリ第三ニ航海事業ヲ世界各國ニ擴充シ其他國際公法物理學法理學哲學等ヲ進歩セシメ又精密ナル世界ノ地圖ヲ創製シタルカ如キ學理上ノ發達モ幾ント枚舉ニ追アラス特ニ其財政家ニ必要ナル租稅法ヲ獨立戰爭中ニ進歩セシメリ蓋シ和蘭ノ敵國ナル西班牙ハ當時非常ニ富裕ナリシヲ以テ其戰端ヲ開キタル以上ハ軍備費用ヲ供給補填スルノ方法ヲ研究スルハ必要ノ事タリ是ニ於テカ種々租稅徵收ノ方法ヲ研究シ先ツ關稅ヲ以テ可及的自國人ニ賦課セスシテ之ヲ外國人ヨリ徵收スル方法ヲ研究シ殊ニ當時ノ和蘭人ハ能ク商業界ノ



眞理ヲ識得シ謂ラク一國ノ商業ヲ擴張シ之ヲ盛大ニ圖ラシムハ須ラク自由ナ  
 ラサル可カラズ苟モ商業上ニ自由アラシム限リハ遂ニ和蘭カ世界ノ商業權ヲ專  
 握スルコト敢テ難カラズ又自國ノ海港ハ各國ノ諸商品ヲ輻輳セシムルハ自國  
 ノ商業ヲ維持スルニ尤モ緊要ナルコトナリトノ事實ヲ確信トシ其方策ヲ運  
 タリ和蘭人ノ商業ニ明カナルコト下概テ此ノ如シ故ニ其財政モ亦主トシテ關稅  
 ニ賴テ成立シ若シ非常ノ事變ニ因リ不測ノ政費ヲ要スルトキハ所得稅法ヲ實  
 行シテ之カ急ニ應シタリ斯ル有様ナリシヲ以テ一時和蘭ハ商業上ノ全權ヲ掌  
 握シタルコト恰モ今日ノ英國倫敦カ世界市場ノ中心タルカ如ク其アムステル  
 ダム港ハ全歐洲市場ノ燒點トナリ歐洲各國ノ商人ハ皆アムステルダムノ市價  
 ニ從テ貿易ヲナセリ和蘭ノ商業繁盛ナルヲ視テ歐洲各國皆之ニ倣テ自國ノ商  
 業ヲ發達セシメント企畫シタレトモ一トシテ其實效ヲ奏シタルモノナシ是他  
 ナシ彼此其國情ヲ異ニスレハナリ抑和蘭國民ノ愛國心ニ富ミ從テ一致協同勇  
 邁ナルコト歐洲諸國中絶テ其匹類ヲ見ス故ニ和蘭國ニ實行シテ良結果ヲ奏シ  
 タル法律モ之ヲ他ノ諸國ニ執行スルハ却テ惡果ヲ生スルコト敢テ珍シカラズ

是レ歐洲諸國カ和蘭ト同一ノ事ヲ試ミ終ニ同一ノ效果ヲ見ル能ハサル所以ニ  
 シテ現ニ英國ノクレンウエルハ和蘭ノ例ニ倣テ自國ノ財政ヲ改良セントノ考  
 案ヲ立テタルモ到底實行スルコト能ハスシテ已ミタリ蓋シ其罪ハ全ク英國民  
 ノ愛國心薄キニ由ルモノニシテ英國人民ノ多數ハ第一ノ革命及第二ノ革命ノ  
 時ニ在テモ毫モ政治上ノ利害ヲ感セスシテ其革命ノ張本人只ニ貴族ニ止マリ  
 國民全體ハ與カリ知ラサルナリ故ニ其革命ノ戰爭後ニ於テモ別ニ政體ヲ變更  
 シタルコトナク唯其結果トシテ僅ニ一國ヲ代表スル所ノ國王ノ名ヲ改メタル  
 ニ過キス近世ト雖モ一國ノ首領カ各其政黨上ノ爭鬭ヲナスニ止マリ國民一般  
 ノ協同一致ヲ以テ堂々タル政治上ノ運動ヲナスコトナシ斯ル國情ナルカ故ニ  
 如何ニ巧妙ニ和蘭ノ制度ニ模倣セント欲スルモ決シテ其目的ヲ達スル能ハサ  
 ルヤ明カナリ  
 前述シタル如ク和蘭ハ屢財政ノ困難ニ遭逢シタリト雖モ特リ國債募集ハ慎テ  
 之ヲ避ケ容易ニ實行セサリシ然レトモ爾後歲月ヲ經百般ノ文物進歩スルニ伴  
 ヒ政費漸ク多端トナリ財政頗ル紊亂シタルヲ以テ例ニ依リ所得稅ヲ實行シ尙



ホ諸種ノ間税ヲ施行スルモ到底其レヲ救フコト能ハサルニ至リタルヲ以テ始  
 メテ自國民中ノ富裕ナル人ヨリ公債ヲ募リタリ固ヨリ此時代ニ在テハ今日ノ  
 如ク容易ニ他國ニ於テ外債ヲ募リ得ルノ便利ナク又他國ノ人民モ妄リニ外國  
 政府ヲ信用シテ其公債募集ニ應スルカ如キコトアラサレトモ要スルニ和蘭政  
 府ハ其始メノ公債募集ニ於テ容易ニ其目的ヲ達シタリ然レトモ其公債募集ハ  
 從來各國ニ行ヒタルモノト稍、其方法ヲ異ニセルカ故ニ此ニ之ヲ一言セン元來  
 和蘭人ハ資本ヲ分割薄少ニスルハ大ニ一國ノ經濟上ニ害アリト信スルヲ以テ  
 其公債ノ如キモ濫リニ自國民中ノ富裕ナル人々ヨリ募集スルトキハ殆ント一  
 種ノ所得税ヲ課スルト同一ノ影響ヲ及ボスモノニシテ一國ノ生産ニ使用スル  
 資本ヲ奪フモノナリ已ニ其資本ヲ奪ハ、一國ノ衰弊得テ免ル可カラス又和蘭  
 多數ノ人民ハ公債ヲ起スハ國民ニ二重ノ負擔ヲ加ユルモノナリ即チ第一公債  
 募集ノ爲メ現在ノ資本高チ減スレハ其減少高タケハ生産力ヲ減殺シ第二公債  
 ノ利息ハ未來ノ生産ヨリ生スル利益ヲ以テ支拂フモノナルカ故ニ其利息高ハ  
 正ニ未來ノ人ヲ苦シムルモノナリト信セリ斯ノ如ク和蘭人ハ公債ノ原理ニ通

築スルコト迄モ亦全ク原因ニ非ストハ云フ可カラス是等無數ノ原因ヲ一々比  
 較衡量シテ損害ノ額ニ割當ルコトハ到底能フ所ニ非ス故ニ法律ハ各場合ニ損  
 害ノ近接ノ原因トナリタルモノヲ取テ之ヲ真正ノ原因トナシ之ヲ惹起シタル  
 者ニ其責ヲ負ハシムルナリ而シテ其近接ノ原因即チ法律上ノ原因結果ハ通常  
 ノ知識經驗ヲ有スル人カ普通ノ場合ニ起リ得ヘシト豫想シ得ルモノナラハ足  
 レリ然レトモ孰レカ果シテ近接ノ原因ナルヤハ實際ノ事實ニ付微妙ナル點マ  
 テ推究セサル可カラス去レハ判決例ニ依ラサレハ充分ニ會得スル能ハサルヘ  
 シ

夫レ然リ通常ノ知識經驗アル者カ通常豫知シ得ヘキ結果ナレハ之ニ對シテ責  
 任ヲ負ハサル可カラス故ニ例ヘハ掘端ニ立テル人ヲ打チタルカ爲メ其人水中  
 ニ陥リテ美麗ナル著服ヲ汚シタリトシ又乙ヲ毆打センカ爲メ路傍ニ埋伏シ居  
 タルニ偶、誤テ丙ヲ毆打シタル場合ニ美服ヲ汚スノ意思ナカリシトテ又丙ヲ害  
 スルノ意思アラサリシトテ其責ヲ免カ、能ハサルナリ去レハ原則トシテハ通  
 常豫知シ得ヘキ結果ニ對シテハ責ヲ負ヒ其反對トシテ豫知シ能ハサル結果ニ



對シテハ法律上ノ結果ナラサルユヘ責ヲ負ハサルハ明白ナリ併シナカラ此ノ如キ例ハ一見シテ明ナレトモ場合ニ依リテハ人ニヨリ或ハ豫知シ得ヘキ結果ト考ヘ或ハ然ラスト考フルモノアルヘキヲ以テ之カ限界ヲ定メサル可カラサレトモ如何ナル學理如何ナル哲理モ到底之ヲ定ムル能ハス唯實例ニ依テ腦裡ニ無形ノ限界ヲ設クルノ外ナシ依テ左ニ有名ナル實例數箇ヲ列舉セン

(一) ヲアンドンベルグ對トログスノ事件

此場合ニハ原告ノ雇人カ被告ノ爲メニ斧ヲ以テ追跡セラレ雇人ハ主人即チ原告宅へ逃來リテ帳場ノ傍ニ隠レントシタル機ニ酒樽ニ衝突シテ之ヲ覆シ酒ヲ漲シタル故原告ハ雇人ヲ追跡シタル被告ニ對シテ損害賠償ヲ請求シタリ然ルニ裁判所ハ逃來リテ帳場ノ傍ニ隠レントスルハ其場合當然ノ事ニシテ又斧ヲ以テ追ハル、如キ危急ノ場合ニハ酒樽ヲ倒ス如キハ普通有リ得ヘキコトナル故被告ハ追跡シタル結果トシテ酒ノ漲リタル責ニ任セサル可カラスト判決セリ

(二) ガイル對スウェーデンノ事件

此事件ニ於テハ被告ノ乘リ居タル風船カ原告ノ庭内ニ墮落シタル場合ニ見物人ハ一ハ之ヲ見ント欲シ一ハ之ヲ救ハント欲シテ續々原告ノ庭内ニ侵入シ爲メニ原告ニ損害ヲ蒙ラシメタリ此場合ニ原告ハ被告ニ對シテ侵界ノ訴ヲ起シテ原告ノ庭ニ被告カ侵入シタルコト及ヒ見物人カ侵入シタルコトニ付テ損害賠償ヲ求メタルニ裁判所ハ元來風船ハ何所ニ墮落スルヤ豫メ測ル可カラサルモノナル故之ニ乘ルニ付テハ他人ノ庭内ニ入ラサルヤウ落ルコトヲ必ス可カラス故ニ他人ノ土地ニ落ルコトハ豫期セサル可カラサル故之ニ付テ責ヲ負フハ無論ニシテ果シテ然ラハ見物人カ續々隣入スルコトモ亦豫知シ得ヘキコトナルコヘ之ニ付テモ亦責ヲ負ハサル可カラスト判決セリ併シナカラ這ハ畢竟風船ハ自由ニ方向ヲ轉スルコト能ハサルニヨレリ若シ船舶ノ如ク舵ヲ以テ自在ニ變轉スルコトヲ得而シテ被告ノ不注意ニ由ラスシテ其舵破壊シタル等ノ爲メ原告ノ庭内ニ墮落シタリトセハ當ニ自己ノ侵入ニ付テ責ヲ負ハサルハ勿論見物人ノ隣入ニ付テモ無責任ナリトハ此判決ノ説明ニモ明言セル所ナリ

(三) グローバー對南西鐵道會社ノ事件



此事件ニ於テハ原告ハ切符ヲ買テ瀛車ニ乗リタルニ被告鐵道會社ノ役員ハ之ヲ無切符ノ乗客ト誤認シ車ヨリ引下シ瀛車ハ其間ニ出發セリ此場合ニ原告ハ被告ヲ相手取り車中ニ兩眼鏡ヲ殘シ置キタレハ其價ヲ償フヘキコトヲ請求セリ然ルニ裁判所ハ之ヲ判決シテ曰ク切符所有者ヲ無切符者ト誤リ車ヨリ引下シタルハ一ノ犯行ナレトモ瀛車中ニ兩眼鏡ヲ殘シ置クコトハ之カ爲メニ普通起ルヘキ結果ニ非スシテ全ク原告カ下車ノ際相當ノ注意ヲ用ヒサリシコトノ結果ニ歸セサル可カラス故ニ被告ハ之ヲ賠償スルノ責ニ任セスト

〔四〕 ヒル對新水道會社ノ事件

此事件ニ於テハ被告會社カ相當ノ注意ヲ用ヒサリシ爲メ道路ノ中央ニ瀆水セシメタル場合ニ偶通リ掛リタル原告ノ馬之ニ駭キテ駈出シ路傍ニアリタル穴ニ陥リ負傷シタリ依テ原告ハ被告ニ對シ其損害賠償ヲ請求セリ尤モ其穴ハ更ニ被告會社ノ事業ニ關係ナキ第三者ノ穿チタルモノナリシ此場合ニ被告ハ其損害ハ瀆水ノ結果ニ非ス畢竟穴アリタルカ爲メナリトノ抗辯ヲ爲シタレトモ裁判所ハ穴ニ陥リタルハ被告カ瀆水セシメタル結果ニシテ途中ニテ突然瀆水

セシムレハ通リ掛リノ馬ヲ駭カスコトハ豫知スヘキコトニテ又馬ニシテ駭キタル以上ハ何所ニ駈出スヤ測ル可カラス故ニ其穴ニ陥リタルハ或ハ河ニ陥リタルト毫モ撰ム所ナク其原因ハ全ク被告ノ不注意ニ歸セサル可カラスト判決セリ

〔五〕 ウヰリアムソン對大西鐵道會社ノ事件

此事件ニ於テハ或場所ニ於テ被告會社ノ鐵道線路ヲ横切リテ二條ノ踏切道路アリタリ其一ハ車道ニシテ一ハ人道ナリシカ條例ニ依リテ車道ノ踏切ニハ番人ヲ置キ且門ヲ設ケ人道ノ踏切ニハ標門ヲ造ルヘキコト、ナリ居レリ然ルニ被告ハ之ヲ造ルコトヲ怠リ居タルニ一日不圖人ノ踏切ニ於テ小兒ノ頭足所ヲ異ニシタル死骸ヲ發見シ原告即チ其小兒ノ親ハ被告ニ對シテ小兒壓殺ニ付テノ損害賠償ヲ請求シタリ而シテ此場合ニ小兒ノ宅ハ人道、車道ノ相會スル所ヨリ凡ソ二丁許鐵道線路ヨリ凡ソ五丁許ノ距離ニ在リテ小兒ノ年齢ハ四五歳ナルカ鐵道線路ヲ通過スヘキ場所ニ使セシメタル證據アリ原告ノ主張スル所ニ依レハ曰ク小兒ハ人道ヲ通過セントシ標門ナキ故線路内ニ立入りタルニ偶瀛



車ノ通過スルニ際シ爲メニ壓殺セラレタルナリト被告ハ之ニ反對シテ曰ク小兒ハ車道ヲ通過セントシ戯レツ、線路内ヲ往來シ居タルニ偶、人道ノ踏切ノ邊マテ來リタル頃瀛車ニ壓殺セラレタルナリト是ニ於テ陪審官ハ數多ノ證據ヲ取捨シテ遂ニ小兒ハ人道ヲ通過セントシタルモノナルコトヲ決定シタリ依テ裁判官判決シテ曰ク人道ニ標門ヲ設クルハ他ニモ理由アルヘキモ一ニハ此所ヲ通行ス可カラストノ觀念ヲ起サシムルニ過キス去レハ標門ナカリシカ爲メニ小兒ノ壓死ヲ惹起シタリトセハ被告ハ其責ニ任セサル可カラスト遂ニ被告ノ敗訴ニ歸シタリ

〔六〕 リンチ對ナイデ<sup>ギン</sup>ノ事件

此事件ニ於テハ被告カ馬車ヲ路傍ニ置キ之ニ番人ヲ附セサリシニ近隣ニ嬉戲シ居タル數人ノ小兒ハ爭フテ之ニ乗ラントシ一人ハ馬ニ乗り一人ハ車ニ上ラントシ原告ノ小兒ハ車輪ヲ上ラントナシ居タルニ馬上ノ小兒カ手綱ヲ曳キタルカ爲メ其馬駈出シ原告ノ小兒負傷セリ依テ原告ハ被告即チ馬車ノ持主ニ對シテ損害賠償ヲ請求シタリ判決ニ曰ク被告ニ責任アリト其理由ハ馬車ヲ路傍

ニ放チ置カハ無知ノ小兒ノ爭フテ之ニ乗ラントスルハ普通有リ得ヘキコトナリ故ニ其當然ノ結果トシテ責任ヲ負ハサル可カラスト

〔七〕 コックス對バービー<sup>ジ</sup>ノ事件

此事件ニ於テハ相當ノ理由アリテ路傍ニ在リタル馬カ偶、通り掛リタル原告ヲ蹴リタリ此場合ニ判決ハ被告ニシテ甚ダシキ惡性ノ馬ナルコトヲ知ラサルニ於テハ責任ナシ何トナレハ通常ノ馬ニシテ人ヲ蹴ルコトハ豫知シ得ヘカラスアルコトナレハナリト然レトモ少シク異ナル場合ニ於テハ責任アリト云ハサル可カラス次ノ事件ノ如キ之ナリ

〔八〕 リー對ライレー<sup>ノ</sup>事件

此事件ニ於テハ廐ノ戸ヲ開キ置キタルカ爲メニ被告ノ馬逸出シテ原告ノ地内ニ入り作物ヲ荒シタル場合ニ被告ハ責任ヲ負ハサル可カラスト判決セリ何トナレハ廐戸ヲ開キ置ケハ馬ノ逸出スルハ普通ニシテ他人ノ地ヲ荒スハ豫期シ得ヘキ結果ナレハナリ

〔九〕 メトロポリタン鐵道會社對ジヤックソン<sup>ノ</sup>事件



此事件ニ於テハ被控訴人ハ瀛車ノ乗客ナリシカ車内乗客填充スルニモ拘ハラ  
 ス或停車場ニ於テ尙ホ續々乗車セントスル者アルヲ以テ車ノ入口ニ佇シ之ヲ  
 拒ミ居タリ然ルニ驛夫來リテ乗客ヲ制セントシタルニ瀛車偶運動ヲ始メタレ  
 ハ被控訴人ハ踰跟トシテ戸口ノ革紐ニ手ヲ掛ケタルニ驛夫ハ之ニ頓著セス戸  
 ヲ閉チ被控訴人ハ爲メニ負傷シタリ此場合ニ被控訴人ノ他ノ乗客ヲ入ラシメ  
 サランカ爲メニ戸口ニ佇メルハ不法ニ非ス會社カ無理ニ乗客ヲ詰込マントシ  
 タルハ不注意ナリトノ證明アリタリ然ラハ損害ハ其不注意ノ結果ナルヤト云  
 フニ第一審ニ於テハ然リトセシモ第二審ニ於テ遂ニ會社ノ不注意ノ結果ニ非  
 スシテ乗客即チ被控訴人ノ不注意ノ結果ナリトノ判決アリタリ

(十) ブライイス對バーミンガム水道會社ノ事件

英國千八百五十四年ノ寒ハ其嚴冽ナリシコト前後比類ナク今尙ホクリメアン  
 ウヰンタート名ケテ土人ノ口碑ニ傳ハル所ナルガ當時被告水道會社所用ノ鐵  
 管嚴霜ノ爲ニ擊タレ消防用水口ノ栓之カ爲メニ毀レテ水溢レ地層ヲ浸潤シ原  
 告ノ穴倉ニ損害ヲ加ヘタリ此場合ニ裁判官本年ノ如キ寒サハ通常人ノ豫想セ

テ商事トハ商法ニ規定スル事項第三條ノ謂ナレハ彼ノ寵商ト稱スル人々ヲ除  
 クノ外世間復タ特種ノ商人ナルモノアルノ理ナク又特種ノ商事ナルモノ存ス  
 ル理ナシ若シ夫レ特種ノ商人特種ノ商事ナルモノアリトセハ亦一般ノ商人一  
 般ノ商事ナルモノナカル可カラス世間果シテ之アリヤ否ヤ又若シ在リトセハ  
 其特種タリ一般タルノ區域ハ正ニ何チ標準トシテ之ヲ確定スヘキヤ恐クハ何  
 人ト雖モ其標準ヲ發見スルコト能ハサルヘシト予ハ信セリ今其或學者ノ説ク  
 所ヲ聞クニ云ク質屋藥舖ノ如キハ特種ノ商業ニシテ仲買人藥劑師ノ如キハ特  
 別ノ商人ナリト是レ毫モ取ルニ足ラサルノ論ノミ論者ハ單ニ質屋藥舖ハ特種  
 ノ商業ニシテ仲買人藥劑師ハ特種ノ商人ナリト云ヘトモ其何故ニ此等カ特種  
 ノ商人又ハ特種ノ商業ナルヤチ説明セサルヲ以テ其理由ノ存スル所ヲ知ルニ  
 由ナシト雖モ今此等業務ノ性質ヲ稽ヘ兼テ論者ノ意ヲ忖度スルトキハ其業務  
 タル各大ニ趣キチ異ニスルモノアルヲ以テ直ニ之ヲ取テ特種ノ商事又ハ商人  
 トナシタルモノナラン歟果シテ然リトセハ是理由ナキノ甚シキモノトセサル  
 可カラス何トナレハ質屋ト酒肆ト其趣キヲ異ニスルカ如ク酒肆ト餅屋トハ其



趣キチ同フセサルナリ故ニ若シ質屋ヲ以テ特種ノ商事トセハ酒肆或ハ餅屋モ亦特種ノ商事トナサ、ル可カラス苟モ此論理ヲ擴充スルトキハ世復々特種ノ商業又ハ特種ノ商人ナラサルモノナキニ至ラン然ラハ則該條ノ意義終ニ解釋スルコト能ハサル歟此故ニ予ハ立法者ノ意思ヲ推究シ特種ノ二字ヲ以テ商事又ハ商人ヲ形容スルモノトナサスシテ法律命令又ハ規則ニ繋ル文字ト解セントス即チ第二條ヲ商事又ハ商人ノ爲メ發布シタル特種ノ法律命令又ハ規則云々ノ意義ニ解釋セント欲スルモノナリ然ラハ其特種ノ法律命令及規則トハ如何ナルモノヲ指サヤト云フニ他ナシ其適用ヲ廣ク一般ニ及ホサスシテ或事柄ニ限り又ハ或商人ニ限りテ而已特ニ適用スヘキモノナ云フ例ヘハ銀行營業鐵道運搬業、質屋、古着屋、飲食店等ノ諸營業規則ノ如キハ事柄ニ關スル特別法ニシテ藥劑師或ハ取引所ノ仲立人ニ關スル規則ノ如キハ商人ニ關スル特別法ナリ而シテ此等特別法ヲ發布スル方法ニ法律ヲ以テスルコトアリ又命令若クハ規則ヲ以テスルコトアリ法律(狹義)ノ意味ニ於テノトハ議會ノ協賛ヲ經天皇ノ大權ヲ以テ發布スル所ノモノヲ謂ヒ命令トハ立法部ノ協賛ヲ俟タス天皇又ハ中

中央政府ニ於テ公共ノ安寧ヲ維持シ人民ノ災急ヲ救フ爲メ緊急必要ノ場合ニ發布スルモノヲ謂フ帝國憲法第八條及第九條ニ於ケル命令ノ如キ即チ是ナリ規則トハ諸官省及法律ノ賦與シタル權限内ニ於テ法律ヲ執行スル爲メニ發布スルモノヲ謂フ即チ省令、府縣令、警察令等ノ如キ是ナリ要スルニ此等ノ特別法ハ素ト行政上ノ取締ヲナス爲メニ制定スル法律ニシテ公法ニ屬シ私法ノ範圍内ニ非サルカ故ニ其效力ハ商法ニ因テ妨ケラル、モノニ非サルナリ是ヲ以テ若シ特別法ニ規定シタル所ト商法ノ成規ト相牴觸スルトキハ特別法ハ商法ニ打勝ツモノトス例ヘハ藥舖開業條例ニ依レハ藥舖ヲ開業セントスルニハ藥劑生タル免許狀ヲ有セサル可カラス然ルニ商法ノ規定ヨリ視ルトキハ苟モ獨立シテ義務ヲ負フ所ノモノハ何人ト雖モ商業ヲ營ミ得ルカ如ク彼此相牴觸スルトキハ必ス其特別法タル藥舖開業條例ニ依ラサル可カラサルカ如シ

### 第一編 通則

商ノ通則トハ總テ商ヲナスニ必要ナシ規則トノ意義ニシテ凡ソ商ヲナスニ關



スル一般ノコトハ其一時ノ商取引ナルト常事ノ商業ナルト又之ヲナスモノハ商人タルト非商人タルトニ論ナク皆本編中ニ規定シタルモノト思考セサル可カラズ如何トナレハ元來商法ハ商人ノ身分法ニ非ス又職業法ニモ非サルカ故ニ其支配ヲ受クヘキモノハ獨リ商人又ハ商業ヲ常職トスルモノ而已ニ限ルノ理ナケレハナリ而シテ一タヒ商法ヲ繕ケハ則チ一目瞭然タルカ如ク本編ハ之ヲ分ツテ十二章トナシ其第一章ニ於テ商事及ヒ商人第二章ニ於テ商業登記簿第三章ニ於テ商號第四章ニ商業帳簿第五章ニ代務人及ヒ商業使用人第六章ニ商事會社及ヒ共產組合商業第七章ニ商事契約第八章ニ代辯人仲立人仲買人運送取扱人及ヒ運送人第九章ニ賣買第十章ニ信用第十一章ニ保險第十二章ニ手形及ヒ小切手ニ關スルコトヲ規定セリ然リ而シテ此等ヲ通則中ニ編入シタル以上ハ破産法モ亦編入セサル可カラス何トナレハ夫ノ破産法ハ如何ナル場合ニ在テモ之ヲ適用セサル可カラサルモノナレハナリ然ルニ我商法ハ破産ノ部ヲ第三編ニ於テ規定シタルハ聊カ失當ノ嫌ナキニ非スト雖モ予ノ講義ヲ擔當スル所ハ商法通則中第一章乃至第六章ニ過キササルヲ以テ其大體ニ於テハ商法

ノ順序ニ由ルモ敢テ不便ナル所ナシ但其逐條ヲ廢シテ之ヲ學術的ニ講說セシト欲スルノミ

### 第一章 商事

#### 第一節 商事タルヘキ事項

商法ノ支配スヘキ事柄之ヲ稱シテ商事ト云フ商法第三條ニ云ク「商事トハ商人又ハ其他ノ人ノ爲シタルニ拘ハラズ總テノ商取引及其他本法ニ規定シタル事項ヲ云フ」ト即チ商事トハ第一商人ノナシタルト非商人ノナシタルトヲ問ハス一ノ商取引第二商法中ニ規定シタル總テノ事柄ヲ包含シタルモノナリ今此定義ニ依レハ商事ト稱スルモノト單ニ取商引ト稱スルモノトハ全ク異別ニシテ商事ナル文字ハ商取引ナル文字ヨリ廣キ意味ヲ有セリ故ニ商取引以外ノ所爲ニテモ猶ホ商法中ニ規定セル事柄ハ悉ク商事ト云フヲ得ヘシ而シテ斯ルコトハ明白疑ナク所ニシテ別ニ辯明ヲ須タス何トナレハ商法ニ規定スルモノ



ハ皆商事ニシテ石シ商事以外ノ事項ヲモ規定スルモノトセハ始メヨリ民法商  
 法ノ區別ヲナス必要ナケレハナリ果シテ然ラハ第三條ノ明文ハ幾シト無用ニ  
 似タリ然レトモ退テ之ヲ熟考スレハ亦其故ナキニ非サルナリ何ソヤ他ナシ法  
 典中往々商事或ハ商事ニ於テハ云々トノ文字散見スルヲ以テ豫シメ其定義ヲ  
 示シテ其區域ヲ明瞭ナラシメンカ爲メナリ世人若シ其商事ト云フノ故ヲ以テ  
 單ニ商取引ノミヲ指示スルモノト速了セハ大ナル誤謬ニ陷ラン而シテ其商事  
 トハ如何ナルモノ、謂ナルヤハ次章ニ於テ詳論スルヲ以テ自ラ會得スルノ期  
 アラン

商取引ハ常ニ商事ナリト雖モ商事ハ必スシモ商取引ノミニ限ラスシテ商取引  
 以外ノ所爲ニテモ猶商事ト稱スヘキモノアリ例ヘハ代人ノ懈怠ニ因リ本人其  
 責ニ任スルカ如キ又或ハ難船ノ場合ニ損害金ヲ受領シ得ヘカラサル時ト得ヘ  
 キ時トニ關スル規定ノ如キハ之ヲ稱シテ商取引ト云フ能ハサルモ亦商事タル  
 ナリ今商法起草者ノ説明書ニ依テ見レハ商取引以外ニ商事ト稱スヘキ事柄二  
 種アリ即チ第一不法ノ所爲第二法律上效力ヲ有セシムヘキ事實及狀況是ナリ

第一 不法ノ所爲トハ船長海員又ハ商業口入商ノ懈怠及總テノ公正ナル信用  
 ナ毀損シタル等ノ事柄ニシテ之カ爲メ各自辨償ノ責ヲ負ハサル可カラサル  
 モノナ云フ此蓋シ商法ハ商人相互間ノ德義信用ヲ嚴格ニ保護スヘキモノナ  
 ルヲ以テ前掲ノ所爲ノ如キハ商法上最モ重要ナルモノナリ

第二 法律上ノ效力ヲ有スヘキ事實及狀況トハ例ヘハ未成年者又ハ婦タルノ  
 故ヲ以テ商業ヲ營ム能ハサル場合屋號ヲ設クル場合破船其他海上ニ於テ難  
 船シタル場合等ノ如シ

商法起草者ハ此ノ如ク商取引以外ノ事柄ニシテ商事ト稱スヘキモノヲ細別シ  
 タリト雖モ予ハ敢テ之ヲ細別スルノ必要アルヲ知ラス而シテ唯商事トハ商取  
 引ハ勿論假令商取引以外ノ事柄ニテモ苟モ本法中ニ規定シタルモノハ皆之ヲ  
 包括スルコトヲ記臆セハ足レリトス

第二節 商事ノ事項ト民事ノ事項トヲ區別スル

ノ利益



商法上ノ事柄ト民法上ノ事柄トハ之ヲ區別スルノ利益尠ナカラズ今其主要ナルモノヲ摘示スレハ

第一 商業ハ迅速ヲ貴ヒ信用ヲ重シ又主トシテ習慣ニ基キ契約スルモノナレハ其舉證ノ方法モ亦自ラ民事ト異ナリテ簡便ノ方法ヲ取ラサル可カラス例ヘハ民事ニ於テ雙務契約ノ證書ハ二通ヲ作り之ニ其二通ヲ調製シタルコトヲ附記スルカ又或ハ一通ヲ作りテ之ヲ第三者ニ委託スルニ非サレハ該契約ノ存在ヲ認めサルカ如キ規定アリ(民法證據編第二十二條)又金額數量等ヲ與フル片務契約ノ場合ニハ其金額數量記載ノ所ニ捺印セサル可カラサル(同上第二十三條等)ノコトアレトモ商事ニ於テハ一切此等ノ法式ヲ必要トセスシテ(商法第二十四條)人證及ヒ人爲ノ推測ヲ以テ證明スルコトヲ得ヘク又民事ニ於テ私證書ニハ署名捺印ヲ要シ其他種々ノ條件ヲ要スルモ商事ニ於テハ只氏名アル書簡電報切符等ノ如キモノモ猶證據トスルヲ得ヘキナリ(商法第二百四十八條)

第二 商事上ノ書入及賣買ノ如キモ特別ノ規則アリテ大ニ民事ト異ナル所アリ

シ更ニ進取ノ氣ナク又政治ノ如何ニ痛痒相感スルコトナク専ラ上命之レ遵フト云フ有様ナルニ社會ノ上流ニ立ツ貴族僧侶ハ人民全體ノ蠢愚ヲ奇貨トシテ國家ノ威福ヲ擅ニセントス然ルニ幸ニシテ獨立戰爭中カザズ市ニ國會ヲ開キ憲法ヲ制定シ豫テ千八百十二年ヲ以テ之ヲ實施シタリシカハ當時立憲政體ノ根據ハ既ニ存セシナリ依テ志士ハ此新政體ヲ保守シ僧侶貴族ノ輩ハ之ヲ顛覆シテ舊政體ヲ恢復セントシ爲ニ西班牙ニ於テ二種ノ氷炭相容レサル政黨ヲ生シタリ

千八百十二年ノ憲法ハ極端ナル民主主義ニ偏セシヲ以テ當初ヨリ之ヲ圓滑ニ行フハ困難ナリシニ相違ナシ而ルニ千八百十四年三月ニ至リウエナ會議ノ決定ニヨリ「ブルボン」家ノ「フェルデナンド」第七世ハ再ヒ歸國スルヤ一時人民ヲ籠絡セン爲メ約スルニ向後八年間此新憲法ヲ變革セサルコトヲ以テシタリ然レトモ王ハ定見ナク信義ナク且ツ人ト爲リ陰險ナリシヲ以テ同年五月四日即チ歸國後漸ク二箇月ヲ經テ既ニ其約ヲ變シ千八百十二年ノ憲法ヲ全廢シ議院ヲ開散シ之ニ代ルニ昔時ノ方法ニ從テ議員ヲ召集シ且ツ身體財產ノ安固ヲ保證シ



新聞紙發行ノ自由ヲ約シ一週日ヲ歴テ更ニ攝政官大臣四名議員若干名其他名士若干名等都合七十名許ヲ捕ヘテ獄ニ下メ後改メテ之ヲ禁錮若クハ放追ノ刑ニ處セリ然レハ此約束モ亦水泡ニ屬シ政府ハ毫モ之ヲ履行セサルノミナラス苟モ時事ヲ論議スル者アレハ直ニ之ヲ捕ヘテ囹圄ニ投シタルナリ是ハ西班牙古來ノ弊患ニシテ其元因ヲ尋ルニ西班牙ニテハ僧侶又ハ貴族中固陋ナル者國王ノ顧問トナリ此等數人又女官ト結托シ巧ニ辯舌ヲ弄シテ政治ニ容喙シ國王モ亦其意見ニヨリテ政治ヲ行フ此朋黨ヲ「カマリラ」小部屋之義ト稱ス而シテ内閣大臣ハ唯タ小部屋組ノ命ヲ遵奉スルノミニシテ毫モ之ニ異議ヲ唱フルコトヲ得サルノ弊患ナリ故ニ屢此ノ如キ暴政ヲ行フモ内閣大臣等ハ之ヲ抑制スルコトヲ得サルナリ

此ノ如キ暴政千八百十四年ヨリ同十九年ニ至ルマテ六年間繼續シタリシカ此六年間ニ於テ革命ノ企圖サレタルコト九回國事犯ヲ以テ入獄シタル者千八百十六年ニ於テ既ニ五萬人財政ノ不整理ヨリ生シタル負債金貨二千五百萬圓ナリト云フ而シテ此巨額ノ金員ハ如何ナル事業ニ消費セシヤ其形跡頗ル疑フ

ヘキモノアリ特ニ甚シキハ武官ニ俸給ヲ與ヘサルカ爲メ士官中或ハ饑ヘテ路傍ニ倒ル、モノアリ或ハ又食ヲ行人ニ乞フモノアルニ至ル其他推シテ知ルヘキナリ況ンヤ南米ノ叛亂ヲ鎮定セントシタルヲ以テ兵士ノ憤怒一時ニ爆裂シ千八百二十年一月一日午前八時ヲ以テ事ヲ舉ケ南西班牙ニ屯セル一大隊長リエゴ其魁首トナリ兵士ヲ集メテ憲法ヲ朗讀シ其兵ヲ以テ司令長官ヲ擒ニシ直ニカザス市ヲ取ラントス然ルニカザス市鎮臺司令長官善ク謀リ非常ノ英斷ヲ以テ此市ノ革命黨ヲ殺戮シタルニヨリ同地方ハ平穩ニ歸シ魁首リエゴハ其謀ル所成ラスシエルラモレナ山中ニ竄ル然レトモリエゴノ舉ヲ聞クヤ全國ノ兵士爭テ蜂起シ勢之ヲ如何トモスルコト能ハス遂ニ三月七日國王ヲシテ再ヒ千八百十二年ノ憲法ヲ採用スヘキコトヲ約セシムルニ至リ三月九日マドリッド市會議員及有志者國王ニ迫テ謁見ヲ請ヒ憲法ニ對スル誓言ヲ得議會徵集マテ臨時政務委員ヲシテ政務ヲ執ラシムルコト、セリ而シテ此委員等ハ先ツ第一著ニ小部屋組ノ執政ヲ斥ケ宗教裁判所ヲ鎖シ新聞條例ヲ廢シ陸軍一同ニ憲法ニ誓ハシメ又國事犯ニヨリテ入獄セルモノヲ悉ク赦免シタリ此等ノ事タル皆悉



ク重大ノ國事ニアラサルハナシ而シテ委員等ハ之ヲ斷行シ毫モ躊躇スル所ナ  
 シ國王ハ已ヲ得ス七月九日ヲ以テ議會ヲ徵集シ改メテ更ニ誓言セラル斯クシ  
 テ革命黨全ク勝利ヲ得テ國民漸ク其堵ニ安スルニ至レリ然レモ其後ニ至リ前内閣ノ失政ヨリ生シタル財政ノ紊亂ト財源ノ缺乏トニヨ  
 然ルニ其後ニ至リ前内閣ノ失政ヨリ生シタル財政ノ紊亂ト財源ノ缺乏トニヨ  
 リ已ムヲ得ス寺院ノ領地ヲ沒收シテ國有トナシ之ヲ一箇人ニ賣却シテ纔ニ國  
 費ヲ支辨スルノ已ムヲ得サルニ至レリ抑農民ノ考ニハ新政府ハ一切ノ租稅ヲ  
 蠲免スヘシト心得シ次第ナレハ政府ハ新稅ヲ賦課スルナドハ思モヨラヌコト  
 ナリ玆ニ西班牙人民ハ熱心ナルカソリック教徒ニシテ寺院僧侶ヲ崇敬スルノ極好  
 ミテ之ニ土地財寶ヲ寄捨スルノ風アリ故ニ其結果トシテ西班牙ノ寺院ハ廣大  
 ノ土地ヲ有シ且金銀財寶ニ富メリ今其土地ヲ沒收シテ財源ニ充ツ固ヨリ財政  
 上得策ナルヘシト雖モ羅馬法王ヲ始メ各僧侶ニ取リテハ非常ノ損害ヲ受クル  
 モノト言ハサルヘカラス故ニ彼等ハ其處置ノ不當ナルヲ論テ敢テ命ヲ拒マ  
 ントセリ加之ナラス人民ハ熱心ナルカソリック信徒ナルヲ以テ自然僧侶ノ不平  
 ニ同情ヲ表スルモノ漸ク多キヲ致セリ蓋シ羅馬教ハ其信徒各國ニ渡リテ其數

多ク且ツ下等社會ニ最モ能ク信奉セラレモノナリ而シテ此多數ナル下等社  
 會ハ概シテ無學ナルヲ以テ宗教ニ狂スルコト之ヲ中等以上ノ人士ニ比スレハ  
 甚シキモノアリ故ニ羅馬法王ニシテ一タヒ動ケハ此等無數ノ下等人民ニ其身  
 體ヲ抛テ狂奔スルコトハ鏡ニ懸ケテ見ルカ如シ事此ニ至ラハ學者モ法律家モ  
 將タ兵士モ之ヲ防クニ於テ寸效ナカルヘシ是レ各國政府ノ羅馬法王ノ不平ヲ  
 和クルニ苦心スル所以ナリ然レトモ西班牙政府ハ之ヲ斷行シタリ而シテ國王  
 ハ全國ノ王權黨悉ク散シ王室政府ノ吏員ニ王權黨ハ其跡ヲ絶テ革命ノ首唱者  
 リエゴハ議會議長トナリ人民ノ國王ニ接スル冷遇ヲ極ムルニ至リテ積忿霽ス  
 ニ由ナク遂ニ千八百二十二年七月二十二日其親戚ナル佛王ル井十八世ニ狀ヲ  
 具シテ援軍ヲ求メタリ  
 佛王ル井十八世ハ此請援ノ狀ニ接スルヤ直ニ諸大臣ヲ集メテ會議ヲ開ク其議  
 ニ曰ク西班牙征伐ノ事タル輕々ニ領諾スヘカラス先ツ其國風ヲ察スルニ奈翁  
 ノ雄略偉才ヲ以テシテ尙ホ七年ヲ徑テ漸ク之ヲ征服シタリト雖モ之ヲ統治ス  
 ルコトノ困難ナリシカ爲メ終ニ之ヲ失フニ至レリ故ニ今濫兵ニ兵ヲ動かスモ



必勝ヲ期シ難シ況ンヤ一旦兵ヲ動カストキハ巨額ノ軍費ヲ要スルニ現在ノ財政ハ實ニ之ヲ許サズルニ於テオヤ然レトモ又一方ヨリ考フルトキハ千八百十四年ル非十八世佛國ニ還御スルヤ當時佛ノ陸軍ハ悉ク奈翁部下ノ將士ナラサルナリ故ニ王ハ露普英三國ノ助ヲ以テ漸ク佛國ニ入ルコトヲ得タリ而シテ王ハ入國ノ後憲法ヲ發布シ其冒頭ニ於テ「ブルボン」家ハ古代ヨリ我佛國正統ノ君主ニシテ大權ヲ總攬シ未タ曾テ庶民ノ意見ヲ入レテ政ヲ左右セス然レトモ時勢ノ變遷亦一考セサルヘカラス昔時祖先ノ行ヒタル政治固ヨリ惡シキニアラスト雖モ時勢ニ適合セサルモノアルヲ以テ今已ムヲ得ス之ヲ改革ス云々ト記シ民意ヲ輕侮シ輿論ヲ蔑視スルノ語氣ヲ示シ又其後陸軍ノ將士ヲ遇スルニ冷淡ヲ極メタルカ爲メ人民及兵士等ノ激昂ヲ招キ大ニ施政ノ困難ヲ來タシリ然ルニ今回西班牙ノ事タル實ニ天我ニ國勢挽面ノ好機ヲ與ルモノニ外ナラサレハ速ニ兵ヲ發シテ西班牙ヲ鎮定シ以テ内ニハ不平黨ノ蜂起ヲ未然ニ挫キ外奈翁ナシト雖モ尙ホ佛國ノ侮ルヘカラサルコトヲ列國ニ誇示シ大ニ國威ヲ四方ニ宣揚スヘシト議一決シテ遂ニ兵ヲ西班牙ニ出スコトナレリ

是ヨリ先キ千八百二十年十月トロバウニ列國會議ヲ開キ翌年一月又ライバハニ開會シ而シテライバハ會議ニ於テ更ニ又其翌年十月ウエロナニ開會スルコトナリ此最後ノウエロナ會議ニ於テ露帝普王ヲ始メトシテ英佛公使等相會シテ決議ヲテ曰ク獨リ佛國ナシテ西班牙ノ内訌ヲ鎮定セザムルハ不可ナリ宜シク露普英三國ノ條約ニ從フテ之ヲ征伐スヘシ而シテ佛國ハ西班牙王ヲシテ再ヒ位ニ復セシメ且千八百十二年ノ憲法ヲ改正セシムヘシ若シ西班牙ニ於テ之ヲ承諾セサルトキハ佛國先ツ之ヲ伐ツヘシ而シテ佛國ニシテ利アラサレハ露普英三國ノ兵之ニ繼クヘシト英公使ハ之ニ反對シタリシモ其效ナカリシ抑佛王ル非十八世ハ戰ヲ好マス故ニ西班牙征伐ノ如キハ其欲スル所ニアラサリシモ唯當時ノ宰相ノ說ニ從ヒタルノミ此ヲ以テウエロナ會議ニ臨席シタル佛ノ使節該會議ノ決議ヲ携ヘテ歸朝スルニ及ヒ王ハ更ニ他ノ使節ヲ遣リテ該決議ヲ翻サシメント謀リシモ事成ラザリシヲ以テ遂ニ翌千八百二十三年一月二十八日議會開會ノ敕語ニ兵十萬ヲ西班牙ニ遣シ「ブルボン」家ノ王統ヲ維持スヘキ趣ヲ傳ヘラル斯克シテウエロナ會議ノ決果及佛王ノ敕語西班牙ニ傳播スル



ヤ國民愈々沸騰シ曾テウエロナ會議ニ臨席シテ其議ニ與リタル諸國ノ公使ニ對シ侮辱ヲ加ヘ之ヲシテ各其本國ニ歸ラシムルニ至レリ蓋シ何レノ邦國ト雖モ遠大ノ國是若クハ前途永遠ノ利害ニ關シテハ有數ノ識者ヲ除クノ外ハ皆殆ント盲人ニ等シク唯目前ノ利害ヲ喧囂スルヲ徒ナルノミ特ニ外交問題ノ如キ其局ニ當ルモノニアラサレハ容易ニ之ヲ窺フコトヲ得ヌ又好シヤ自國ノ外交事情ニ通スルトスルモ必スシモ他國ノ事情ヲ諳スルモノト云フヘカラス故ニ無智無學ナル多數人民ノ囂々ハ恰モ蛙鳴蟬噪ニ等シク實際國家ヲ裨益スルコト尠シ西班牙當時ノ景況モ殆ント之ニ異ナラサリシヲ以テ政府ハ大ニ困却ヲ極メタリ加之ナラス軍紀大ニ廢レ將士屢謀反シ財政又大ニ亂レテ國帑足ラス外債ヲ募ラント欲スルモ之ニ應スルモノナク四隣一トシテ好ヲ通スルモノナシ唯少シク頼ムヘキハ佛國ナリシモ彼ハ今ヤ我ヲ征スルノ先鋒タリ更ニ援ヲ英國ニ請ンカ彼ハ商業國ナルヲ以テ自國ノ商業ニ一大不利益ヲ與ル場合ニアラサレハ濫リニ干戈ヲ動スコトナシ唯口援ヲ爲スノミ故ニ是レ又依頼スルニ足ラサルナリ此ニ於テ西班牙ハ全ク孤立ノ有様トナリ佛軍ノ侵來ニ遇フモ之ヲ

期限經過後ハ兩國政府爭フテ先方ノ生産物ニ高稅ヲ課シ葡萄酒ニモ殆ント禁止稅トスルニ足ル高稅ヲ課シ其他ノ商品ニモ稅率ヲ增加セシコト五割乃至一倍ニ達スルニ至レリ佛國ニ於テ伊國產ノ蠶絲百斤ニ付十五圓ノ稅ヲ課セシモ此時ニアリ而シテ佛國政府ハ此條約期限經過後第一著ニ伊太里ヨリ花木切花果物生鮮ノ野菜園藝ノ生産品ヲ輸入スルコトヲ禁シ只栗ノ剝キ實ノミ此禁ヲ免シタリ(栗ハ伊國ノ名產ナリ)然ルニ伊太里ニ於テ亦直チニ復讐ノ方針ヲ取リ甚シキハ佛國ヨリミラン府へ火葬ノ爲メニ送ル所ノ死體ヲ以テ輸入物ナリトシ一死體ニ付十四ポンド下高稅ヲ課シ其遺骨死灰ヲ故國へ歸葬スルトキハ又之ヲ輸出物トシテ更ニ同額ノ輸出稅ヲ課スルニ至レリ(死體ヲミラン府ニ火葬ノ爲ニ送ルハミランハ大寺ノアル所ナレハ宗教上ノ關係ナルヘシ嗚呼是レ何等ノ奇觀シヤ彼ノ碧眼奴ノ爲ス所無情モ亦極ルト云フヘシ夫レ國ノ東西ヲ問ハス古ヨリ冠婚葬祭ハ人生ノ大禮ナリ其大禮ノニテ行フニ當リ此不禮ヲ以テ忍テ人ニ加テ誰カ之ヲ不仁ニ非スト云シヤ抑伊國ハ夙ニ世界ノ開明國ニ屈指セラレ今ヤ歐洲中優等文明國ニ位スルニ強國ナルニ朝佛國ノ舉動ヲ憤リ其



爲ス所實ニ野蠻旨味ノ國人ニ齊シ豈ニ悲シムヘキノ至ニ非スマルソ人怒ルト  
 キハ其真心ヲ失ヒ國怒ルトキハ條理ヲ忘レ易シ宜シク慎マシムハアルヘカラ  
 ス其他伊國ノ佛國貿易ニ障害ヲ與フルハ擧テ數フルニ暇アラヌ是ニ於テ乎佛  
 國政府ハ又從前伊國人民ニ與ヘシ佛國領海アルゼリトモ包含スノ漁業沿海貿  
 易港稅免除ノ特許ヲ除却シ以テ之ニ報答セリ夫レ佛伊貿易上ノ爭鬪概テ此ノ  
 如ク其兩國間ノ貿易上ニ非常ノ不便ヲ惹起セシヤ知ルヘキナリ然レトモ各其  
 情況ヲ異ニシ苦痛ノ度ニ至テハ自ラ雙方ニ差違ナキヲ得ス元來伊國ヨリ佛國  
 へ輸入スル葡萄酒ハ普通一般ノ飲料ニ供スルモノナレハ輸入稅ノ爲メニ其價  
 格ヲ増加スルハ自然ノ理ナルヲ以テ佛國ニ於テモ亦之ヲ製造スルコト容易ナ  
 ルヲ以テ大ニ伊國ノ競争力ヲ減スルハ論ヲ俟タヌ加フルニ伊國ハ佛國ノ如ク  
 資本ニ富マサルヲ以テ自ラ其生産物ヲ賣リ急カサルヲ得サルノ事情アリ而シ  
 テ近來ニ至リ伊國ノ細民ハ「ピケツト」ト稱スルリトウソドヨリ輸入スル干葡萄  
 ヲ以テ製造セラレタル廉價ナル葡萄酒ノ使用ニ慣レ其消費年ニ増加スルノ勢  
 ナルヲ以テ自國製造ノ葡萄酒ハ更ニ輸出ヲ要スルノ實アリ然ルニ佛國ヨリ伊

國へ輸出スル葡萄酒ハ概ネ「シャンパン」及「ボルゴシヤ」「ボルドー」製ノ上等葡萄  
 酒ニ限ルヲ以テ從前ヨリ富豪者及上等饗應等ノ爲メニ用ラル、ヲ以テ關稅ノ  
 如何ニ關セズ敢テ著シキ變動ヲ及ホサ、ルカ故ニ其得失上伊國ノ敗タルヤ疑  
 ナ容レズ佛國保護家ノ一流ハ之ヲ觀テ得色アルカ如シ然レトモ是レ他人ノ二  
 指ヲ折リタルヲ見テ自身ノ一指ヲ折リシ苦痛ヲ忘レ快然トシテ喜ブモノニシ  
 テ固ヨリ全局ノ關係如何ヲ知ルモノニアラサルナリ  
 歐洲大陸貿易ノ景況此ノ如クナルヲ以テ國際ニ密商ノ行ハル、コト實ニ非常  
 ノ度ニ達セリ然レトモ佛國ハ之ヲ伊國ニ比スルニ其物産通例精巧高價ノモノ  
 ナルヲ以テ佛ヨリ伊ニ致スハ伊ヨリ佛ニ致スヨリ便利ニシテ又之ヲ他國へ致  
 スモ同様ニシテ佛ノ便ハ伊ニ優ル所アリ故ニ佛ハ密輸出ハ密輸入ヨリ容易ニ  
 シテ伊ハ佛ヨリ受ルニ便ナルモ其授クルニ不便ナルヲ知ルヘキナリ然レハ則  
 テ貿易抑制ノ關係上伊ハ佛ニ比シテ最モ不便ヲ蒙ルハ亦疑フヘカラス西曆  
 千八百八十七年ノ初ノ五箇月ト八十八年條約期限經過後ノ五箇月トヲ比較ス  
 ルニ伊ヨリ佛へ輸出シタル貨物ハ葡萄酒ニ於テ二萬四千樽ト六十九萬五千樽



家畜八百萬、フラン五穀千六百萬、フランヲ減シ佛ヨリ伊ヘ輸出シタルモノ、内絹布、絹紐類、綿布、紙製裝飾品等ニ於テ三割乃至七割五分ノ減少ヲ示セリ抑、伊佛兩國近年ノ舉動タル殆ント兒戲ニ類シ互相ノ不便ヲ醸セシコト甚々大ナリト雖モ其迷夢久シク覺メス漸ク西曆千八百九十二年ニ至リ新條約ヲ締約スルニ至レリ

佛國政府カ外品ノ輸入ヲ嫌惡シ國產ノ輸出ヲ喜フコトノ甚シキハ殆ント一種ノ慢性病トナルカ如シ蓋シ是レコルベヤ以來國民ノ骨髓ニ入ルモノニシテ容易ニ蟬脫スルコト能ハサルヘシ然ルニ其北部各縣ヨリ獨逸ニ向テ馬ヲ輸出スルコトノミハ國家ノ爲メニ大ニ憂フヘキ事トシ遂ニ之ヲ禁止セリ嗚呼佛國人民ノ獨逸ニ對スル感情一ニ茲ニ至ルヤ然レトモ又之ト同時ニポルドー及ウイヤンヌノ家畜商ハ英國政府カ佛國家畜ニ流行病アルノ恐レアリヲ以テ其陸揚ヲ拒ミタルヲ怒リ是レ英政府カ流行病ヲ口實トシ暗ニ保護政策ヲ行フモノナリトシ大ニ不平ヲ鳴ラセリ是ニ至テ佛國人民復其真相ヲ顯ハセリ抑、一國人民カ其感情ノ爲メニ動かサル、ニ當テヤ利害ノ如何ヲ顧ミス條理ノ所在ヲ失

スルコト概テ此ノ如キモノアリ豈ニ戒メサルヘケンヤ  
内政ニ於テモ亦前後矛盾スルモノ少シトセス西曆千八百八十年佛國政府ハ内地運送ノ費用少カラサルカ爲メ佛國諸般ノ營業ハ他國ト競争スルコト甚々難シトノ理由ヲ以テ河川、運河ノ運送ニ課シ來リシ一切ノ租稅ヲ免除シ大ニ運輸ノ便ヲ開ケリ然ルニ近年ニ至リ佛國內地水路ノ運送ニ租稅ヲ課セサレハ英、獨白產ノ石炭ハ此免租ヲ利用シ深ク佛國ノ内地ニ入ルコトヲ得折角國境ニ於テ佛國產石炭保護ノ爲メ賦課シタル輸入稅ノ效驗ハ之ヲ失フニ至ルヘシトノ説ヲ唱ヘ此不便有害無雙ナル稅ヲ恢復スルノ運動頻リナリ凡ソ人世ノコト素ヨリ森羅萬象全局ノ大利ヲ計ルニ當リ時ニ或ハ區々タル一偶ノ利益ヲ顧ミルニ暇ナキコトヲ保セス一小害ヲ留メスシテ以テ百大害ヲ排除セントス抑、亦難ヒ哉

輓近佛國ハ亞細亞大陸ノ東南ニ著目シ其號令大ニ安南地方ニ行ハル英國モ亦大ニ地ヲ印度地方ニ略シ今ヤ印度全國緬甸等悉ク英ノ有トナレリ而シテ英領ハ今日ニ於テハ貿易上全ク本國ノ干涉ヲ免レ其輸出入共ニ自在ナリト雖モ佛



軍ノ到ル所ハ悉ク干涉政略ヲ布キ往日ノ植民政策ヲ取リ一地ヲ得レハ其人民ヲシテ佛國製造品ヲ購入セシメ其原料ヲ佛國ニ輸セシム是ヨリ先キ佛國ノ未タ安南地方ニ志ヲ得サルニ當テヤ諸國ノ製造品ハ自由ニ此地方ニ入ルヲ得シト雖モ今ヤ佛國ノ制度ハ之ヲ許サス亞細亞東南ニ於ケル外國貿易ノ景況ハ實ニ一大變動ヲ起セリ爰ニ一例ヲ以テ之ヲ證センニ佛民侵入以前ニ於テハ安南地方ノ人民ハ清國製ノ薄キ縲紗ナル「エタミン」ト稱スル綿布ヲ輸入シ之ヲ衣類トシ毫モ其輸入ニ抑制ヲ受ルコトナカリシト雖モ一タヒ佛軍ノ占領スル所トナリシヤ彼ノ「エタミン」ニ原價五割ニ當ル高率ノ輸入税ヲ課シ殆ント輸入禁止ノ勢ヲ呈セリ元來同地方ノ人民ハ概テ貧ニシテ餘財ナク納稅義務ノ如キハ勞力ヲ以テ之ヲ果スチ通例トス然ルニ其著用ノ綿布ハ佛國制度ノ爲メニ代價ヲ騰貴セシヲ以テ彼ノ炎熱ナル地方ニ於ケル衣類ヲ調達スルモ尙ホ且ツ從前ヨリ一時乃至二時間ノ勞働ヲ増加セサルヲ得サルニ至レリ是ヲ以テ西曆千八百八十七年七月佛國ノ此制度ヲ安南地方ニ布キシ以來同地方ハ外品輸入ノ高四割五分ヲ減少セリト云フ夫レ或ハ然ラン

彼ノ細爾タルルーマニヤモ亦歐洲諸國ノ例ニ倣ヒ澳國ヨリノ輸入ニ非常ナル不便ヲ與ヘタリ今其一例ヲ舉ケンニ澳國ヨリ輸入スル履ニハ「ハンドレツドウエイト」ニ付六百「フラン」ノ高稅ヲ課スルヲ以テ非常ニ不經濟ナル一種ノ奇觀ヲ貿易上ニ生セリ元來瑞西和蘭ノ兩國ニ於テハ其境界ニ於テ輸入税ヲ拂ヒシ以上ハ輸入品ト雖モ同シク内國產トシテ之ヲ取扱フノ制度アリ是ヲ以テ澳國ノ履製造人ハルーマニヤノ高稅ヲ避ケンカ爲メ先ツ其製品ヲ瑞西又ハ和蘭ニ輸送シ是等ノ國品トシテ之ヲルーマニヤニ輸出セリ實ニ是レ非常ナル迂路ヲ取ルモノニシテ時間ト運賃ニ於テ莫大ノ損失ヲ受ルト雖モ尙ホルーマニヤノ境上ニ於テ高率ノ輸入税ヲ拂フニ勝ルヲ以テ澳國ノ製品輸出上此ノ如キ奇觀ヲ呈スルニ至ル實ニ澳國ハ其輸出ニ非常ナル不便ヲ感スト雖モルーマニヤモ亦尙ホ其目的ヲ達スルコトヲ得ス徒ラニ其人民常用ノ履ヲシテ高價ナラシメ以テ衆庶ヲ苦シムルモノニ過キス是ニ於テルーマニヤ政府モ終ニ澳國商品ノ輸入ヲ防遏スルコト能ハサルヲ悟リ澳國カ瑞西若クハ和蘭ヲ迂廻スルノ費用ト該兩國ノ製造品トシテ取扱ハル、爲メニ支拂フ所ノ費用ニ恰當スル高ニマ



テ其輸入税率ヲ減少セリ  
 外品ノ輸入ニ高率ノ税ヲ課シ自國ノ製産物ヲ保護セントシ却テ外國貿易ヲ不  
 便ナシ與ヘ識ラズ知ラス自國人民ノ衣食住ヲ高價ナラシムルハ近年一種ノ流行  
 病トナレリ佛國ノ如キハ最モ其甚ダシキモノニシテ麥類家畜類酒精類其他ノ  
 物品ノ輸入税率ヲ増加セシヨト夥シク尙ホ進シテ之ヲ増加スル勢アリ則チ羊  
 輸入税ハ從前ハ一頭三十「サンチム」ナリシニ十年以來漸次ニ増加シ一頭五  
 「フラン」トナリ牛ノ輸入税ハ一頭三「フラン」六十「サンチム」ナリシニ三十八「フラ  
 ン」ヲ増加シ鱈魚ハ百「キログラム」十二「フラン」半ヨリ四十八「フラン」ニ増加セリ大  
 麥ハ佛國農民ノ常食ニシテ日常缺クヘカラス又其價格ノ低廉ヲ要スル物品ナ  
 ルニ其輸入税ハ一噸十「フラン」ヨリ増加シテ三十「フラン」トナセリ而シテ歐洲外  
 ノ産出ニシテ歐洲ノ他ノ國ヨリ輸入スルモノニ對シテハ更ニ三十「フラン」ヲ加  
 重ス是レ何等ノ爲ニスル所アツテ然ル乎元來佛國ハ事ノ煩擾ヲ好ムヲ風習ア  
 リ豈ニ奇ナラスヤ  
 合衆國ニ於テハ從價トシテ之ヲ算スレハ西曆千八百八十四年ニハ輸入税率ノ

ラ夫レガ高イ氣遣ヒハ無イ夫レト同シ事デ昔ハ物ヲ知ラナイ時デ統計杯ノ事  
 ハ只今モ言フ通り無用ノ事ノヤウニ思ツテ居ル時ニ之ヲ取ルトイフ事ト今日  
 世ノ中デ以テ統計ハ大事ナモノデアアル之ガナケレバ政治ガ出來ナイトイフ時  
 ニ取ルトハ大變骨折ガ違フ容易ニ取レナイ時ニ骨折ツテ集メタノヲ考ヘテ  
 見ルト骨折トイフモノハ決シテ容易ナモノデ無イ例ヘバ此貿易表デモ左様デ  
 御座イマスガ明治六年ノ貿易表ヲ見ルト金銀ノ高ガ箱デ數ヘテアル皆物ガ箱  
 ニナツテアリマスガ此金ヲ箱デ數ヘルトイフ事ハ實ニ驚クベキ話デアアル金ノ  
 塊ガ五十一箱斯ウ云フ事ガ書イテアリマス物ヲ箱ニ入レテ數ヘル時ニハ中ニ  
 幾クラ這入ツテ居ルカ分ラヌ夫レ程進歩シナイ金銀ヲ箱デ勘定シ箱ニ這入イ  
 ツテ居ルカラ幾箱品物ガ出タトイフ事ヲ言ツテ濟マス位ニ不進歩ノ時ニ是レ  
 丈ケノ仕事ヲシヤウトイフデアリマスカラナカノ六ヶ敷カツタニ相違ナ  
 イ是レハ只斯ウ云フヤウナ材料ガアツテ何モシナカツタデハ無イ大イニ骨ヲ  
 折ツタトイフ事ヲ言フ譯デアアル夫レデ此統計局トイフモノハ初メハサウ云フ  
 工合デアツテ仕事ヲシタガ統計院ガ出來テドウナツタカト云フト統計院ガ出



來タ時ニ前カラ明治六七年ノ頃カラ統計ニ從事シテ明治十三年頃マデ居タ人ハ最早既ニ五年以上ノ經驗ノアル人デアリマスカラサウ云フ新規ナ役所ノ立ツタ時ニハ前カラ經驗アル人ヲ使フベキデアルノニ左様デ無クズツト御客サマデ餘所カラ這入ツテ來テ昔カラヤツテ居ル人ノ方ガ下ノ方ヘ押付ケラレテ真中カラシテ上ノ方ハ新規ノ者ガズツト這入ツテ來テ御客サマニナツテ這入ツテ來タ夫レデ下ノ方ノ人ハ幾ラカ其事ニ熟練シテ居ルケレ共ズツト下ノ方ニ居テ給仕同様ナ働キヲシテ居ル上ノ方ハ何モ統計ニ關係ノ無イ人ガヤツテ來テ大イニ勢ヒヲ張ツタ然ウ云フ譯デアリマスカラ何シロ統計ノ事ヲ長クヤツテ居タ人トイフモノハ面白味ガ無クテ統計ノ事ハ厭ニナツテ去ツタ人モ幾何ラカアル是レハ是レ迄ニシテ置キマセウ、

夫レカラ其次第三ニ自由新聞ノ論ニ統計年鑑ノ出様ガ遅イ、出版ノシヤウガ遅イ、其遲イトイフ事ハ成程早ク出來ルナラバ早クスルガ宜イデス、是レハ烈シク議論ヲスル事ハ無イ、只成ヘク出來ルナラバ早クスルガ宜イトイフ事ニシテ私モ同意デアルトイフ事デ後トハ言ハナイデ宜イ事デアル、夫レカラ外國ノ統計

年鑑ト較ベテ日本ノ統計年鑑ガ早イカ遅イカトイフ論ガアリマス、是レハ國ノ事情ニ依ツテ或ハ早クモナリ遅クモナルデ御座イマセウカラ餘リ入釜シク論スルニ及バヌ、只外國ノヨリ早ク出來ルナラバ早クスルガ宜イトイフ丈ケデ宜イト思ヒマスガ其事ニ付テ第四トシテ御話ヲシナケレバナラヌノハ人口調べノ事デアリマス統計年鑑ニ舉ラレタル人口調べトイフノハ今年ノ十二月ニ出ル統計年鑑ニ載セタモノハ昨年暮ノ十二月三十一日人口デ無クシテ一昨年末ノモノガ這入ツテ居ル、何故一年モ間ガアルカラ昨年ノモノガ舉ラレ無イカ、舉ラレナイ譯ハ無イデハ無イカト、斯ウ云フ論デアルガ是レハ實際ノ事ヲ御話ナスルト分ル、戶長役場ダノ區役所ダノデ人口ヲ調べルノニ區役所ノ書記ヤ何カガ十二月三十一日ノ人間ノ數ヲ一月中ニ調べテ出ストイフ約束ニナツテ居リマス一月中ニ戶長役場デ表ヲ拵ヘ上ゲテ二月十五日ニ郡役所ヘ集メル中ニ少シ遅レルモノハ三月初ニ集マル、夫レカラ縣廳デハ夫レヲ三月十五日カラ二十日頃マデニ仕上ゲル、サウスレバ夫レハ早イ方デアル、夫レカラ四月初ニ内務省ヘ出テ内務省デ表ヲスツカリ整頓ヲシテ間違ヒノアル分ハ直シニヤル、疑ハシ



イモノハ夫レヲ聞キニヤルトイフ手數ヲシテ始メテ出來上ル、夫レガ出來上ツタトイフ事ハ何時デアルカトイフト官報ヲ見マスルト十月ノ二十日ノ官報ニ其人口ガ出テ居ル、其十月二十日ノ官報ニ出テ居レバ其時ニ内務省デハスツカリ出來上ツテ居ルカト云ヘバ左様デナイ、其重モノハ締高ガ附イタトイフ譯デ官報ニ出ス、夫レカラ多少ノ手ヲ掛ケナケレバ統計年鑑ヘ出ス丈ケノ品物ニハナラヌ、今年出版スル統計年鑑ハ第十一統計年鑑デアリマスガ夫レヲ出版スルニ付テハ入札ヲシロト云フテ印刷屋ニ之ヲ入札サセル、廣告ガ出テ居リマス、其時ニ印刷屋ガ往ツテ見ルト斯ウ云フ本ノ原稿ガアツテ之ヲ出版スルノダガ是レガ幾ラデ出來ヤウカト云ツテ見セル、ソレヨリ後ニ原稿ヲ取換ルト云フコトハ出來ナイ一方デ官報ヲ出タ時ニハ一方デハ本ガ出來上ツテ入札ト云フ場合ニナツテ居ルカラ之ヲ一緒ニスルト云フ事ハ今日デハ出來上ツテ入札ト云早クスル方法ハナイカト云フト早クスル方法ハ金ヲ餘計掛ケル又人ヲ餘計ニスル此二ツノ方法ニ過キナイ然シ今日デハドウモ夫レヲ直ニ行フ譯ニモ行カヌ從ツテ早クスル事ハ出來ナイ夫レデスカラ何故ニ昨年末ノ人員ガ其年ノ統

計年鑑ニ載ラナイカト云フ事ハ實際ニ於テ出來ナイト云フ事ハ其通りデアルカラ分ツテ居ル、外ノ事ニシテモ遅クナルノハ夫々内部ノ事情ガ有ルコトデアリマスカラ夫レヲ外面カラ攻撃シテモ夫レヲ内部デ取扱ツタ事ノ無イ人ニハ分ラヌ傍デ考ヘルト手モナク出來サウダガ内部ニ這入ツテ見ルトサウ云フ譯ニハ行カナイカラ私ハ統計局ノ爲メニ思フニ夫レハ今ノ有様デハ出來ナイ是レカラ先キ統計局ニハ斯フ云フ事ヲシテヤレト大臣當リカラ命スルカデナケレハ出來ナイ、是レハ遅レテモ無理ナ事デハナイト云ツテ新聞ノ非難スルノヲ取消ス、ドウモ然ウ云フ注文ハ無理デアルト斯ウ私ハ云フ併シデス、茲處ガ私シガ一步進メタ議論デ此鶴南漁夫ト云フ人ハ統計ハドンナモノデアルカ内部ノ事情ヲ知ラヌカラ、去年ノ十二月ノ人口ガ今年ノ統計年鑑ニ載レバ善ト思フデセウガ私ハサウジヤナイ、洗濯スルト新タニスルトノ違ヒデコ、デアル實ニ此ノ人口調ハ役ニ立タナイ此ノ人口ガ近頃幾ラカ告朔ノ餼羊トイフ鹽梅ニ調ヘズニ置ヒタラバドウダト云フ時ニハ夫レハ尙ホ止ムニ優ルト云フ事ハアルケレドモ、今日ノ人口ハ確カナ者デナイ、甚ダ不安心ノ者デアル、何故不安心カト云



フニ、外國デハ五年目或ハ十年目ニ一回百萬圓モ掛ケテ、人口ヲ調上ケテ一年モ掛ツテ出來ル者ガ、日本デハ一月間ニ調ベル、其調ベル事柄ハ族籍、男女、年齢、婚姻ト云フ様ナ部類ヲ分ケテ拵ヘルケレドモ、夫レナバ區役所ノ書記カ二人ヤ三人デ出來ル譯ガ無イ、夫レノミナラズチヨツト聞ク所ニ據レバ此邊神田ヲ云フナランニ大火事ガアツタ、其時ニ皆家族ヲ舉ゲテ彼地此地ニ逃テ仕舞ツタ、逃ケテ仕舞ツテモ戶籍ハ殘ツテ居ル或ハ其地ヲ立退イタ場合ニ届テ來ル者モアル或ハ元ノ場所ヘ家ヲ建テル人モアル、ケレドモ併シ決シテ元ノ通りニナル氣遣ヒハナイ、ナイケレドモ夫レ丈ノ人ハ散ツテ仕舞ツテモ戶籍ニハ上ツテ居ルカハ矢張り數ヘテ殘ツテ居ル、人間ハ生キテ居ルニ相違ナイ又戶籍モ殘ツテ居ルガ居所ト戶籍トハ別レテ仕舞フ、サウ云フ事ガ起ルサウ云フ時ニハドウスルカ其外マダ幾ラモ六ケ敷イ事ガアリマス、第一ニ種々ナ論ノアル中ニモ人口調ベト云フ事ハ只人ノ年齢ト人ノ數ヲ調ベレバ宜ヒト云フ譯デハナイ人口調ト云フ時ニハ先ヅ其職業ヲ調ベ又財産ヲ持ツテ居ルカ居ラヌカラ調ベナケレバナラヌ、サウ云フ事ヲ悉ク同時ニ調ベルト日本ノ國ニ農業ヲスル者ガ何人アル、工業

ヲスル者ガ何人アル、夫レカラ商業ニ從事スル者ガ何人アル、又工業ニ從事スル者ノ内デハ紙ヲ製造スル人ガ何人、或ハ商人ナラバ金物ニ付テ商賣スル人ハ何人、夫レカラ革業ニ依ツテ生活スル人ガ何人ト云フ事ハ能ク分ル、夫レガ分ルト政治ヲスルノニ机ノ上デ考ヘテモ間違ハナイ、何處ノ縣ニ鹽濱ヲ持ツテ居ル人ガ何人、其財産ハ何ノ位ノ財産デアアル、何處ノ國ニ酒ヲ造ル人ガ何人、サウシテ其人ノ造石高ハ何ノ位ト云フ事マテ何デモ彼テモ分ル、サウ云フ物ヲ拵ヘタナラバ果シテ政治ノ方針ト云フ者ガ極ツテ來ル、所ガ日本ノ人口調ベハサウ云フ事ハナイ、又宗教デモサウデス、其時同時ニ宗教モ調ベルト耶蘇教ノ人モ出テ來ル耶蘇教ノ事ハ何故調ベテナイト云フ事ガアリマスガ、耶蘇教ト云ツテモ調ベヤウガナイ、夫レカラ佛敎ノ信徒デモ其通りサウ云フ事ハ調ベヤウガナイ、夫レデ調ベタ事ガナイ、サウ云フ事ヲ聞イタ事ガナイカラ集ツテ來タモノハナイ、夫レ計リデナク日本ノ人ノ内デ財産ヲ持ツテ居ル人ト持ツテ居ナイ人ガ何人アルカ分リマセヌ、地面持カ何人カ家持カ何人カ舟ヲ持ツテ居ル人ガ何人カ分リマセヌ、サツパリ分ラナイ何ニモカモ分リマセヌ、一軒ノ家ニ巡查ガ來マシテ貴君



ハ何デス、私ハ養子デス、貴君ノ御家族ハ何人アリマス、ドウモ確カニ分リマセヌ  
 御職業ハ何デス、ドウモ確カニ分リマセヌ、一體女ガ何人デ男ガ何人デ其職業ハ  
 分リマセヌカ、ドウモ能ク分リマセヌサウシテ何カ持ツテ御居テナサルカ、ドウ  
 モ分リマセヌ、何チ持ツテ居ルカ分リマセヌ、……併シ夫レハソソナニ耻ニナル  
 事デハ無イガ、試ミニ外國ヘ往ツテ御前ノ國ニ不動産チ持ツテ居ルモノガ何人  
 アル、分リマセヌ、鹽濱ノ主ガ何人アル、分リマセヌ、網チ打ツテ魚チ採ツテ夫レチ  
 營業スルモノガ何人アルカ、分リマセヌ、皆分リマセヌ大抵分リマセヌ、誠ニ困マ  
 ヲタ次第デアリマス所ガ中ニハ強イテ夫レチ分ラセヤウトスル人ガアルケレ  
 共、夫レハ無理注文デアル、無理チ事チ注文スル、而シテ人口調べヲスル時ニ大切  
 ナ箇條ハ調べズニ馬ノ好キチ人ハ馬ヲ持ツテ居ル人ハ何人アルカ又馬ヲ何匹  
 持ツテ居ルカトイフヤウチ事チスツカリ調べ家ノ好キチ人ハ家ノ數チ調べ地  
 面ノ好キチ人ハ地面ノ數チ調べ或ハ山ニ樹ツテ居ル材木ノ數チ調べテ出セト  
 云ヒ、或ハ宗教ハ何宗ヲ信ジテ居ル人ガ何人アルカ知リタイ或ハ何が知リタイ  
 彼ガ知リタイト云フテ色々注文ナスルカラ區役所、戸長役場ヘ往ツテ見ルト

日本銀行ト日本ノ經濟及ヒ財政トノ關係

阪谷芳郎君述  
 荒浪市平速記

此節ハ大分長イ演説ガ流行シテ參リマシテ大石君杯ハ四時間、稻垣君ハ五時間  
 ヤルトカ長イ程價ガアルヤウチ話デアリマス私ノヤウチ拙チ演説者モ事ニ依  
 ヲタラ長クナルカモ知レマセヌ、成丈ケ短ク致シマス(謹聽)  
 其處デ私ノ演題ハ日本銀行ト日本ノ經濟及ヒ財政トノ關係ト申ス題デ御座イ  
 マス、近頃日本銀行ノ課税ノ問題デアルトカ或ハ又日本銀行ガ他ノ會社銀行等  
 ヨリモ多分チ利益ヲ得テ居ルノガ不當デアルトカ申スヤウチ日本銀行ヲ少シ  
 ク攻撃スル議論ガ世ノ中ニ多クナツテ參ツタヤウデアル、私ハ今日日本銀行ニ  
 果シテ税ヲ課スルノガ宜イカ悪イカト云フ問題マデハ論究致シマセヌ、固ヨリ  
 税ヲ課スベキ道理ガアレバ課シテモ宜カラウ、税ヲ課シテ悪イナラ課シナイガ



宜イト云フ事デアアルガ併ナガラ課シテ宜イカ悪イカト云フ問題マデハ論究  
シナイ鬼ニ角日本銀行ト云フモノハ今日我邦ノ經濟上並ニ財政上ニ於テ實ニ  
容易ナラヌ所ノ關係ヲ持ツテ居ル其關係ヲ素人ノ方々ハ餘リ能ク御存ジガ無  
イカラ詳シク申上ゲテ置キタイト云フノデアリマス日本銀行ト申スモノハ法  
人デアリマシテ帝國議會ニ代表者ヲ出スト云フヤウナ權利ヲ持ツテ居ナイ詰  
リ一ノ法人デアルカラ代表者ヲ出スト云フヤウナ權利ヲ持ツテ居リマセヌデ  
アルカラシテ誰カ日本銀行ノ爲メニ公平ニ其經濟上財政上ノ關係ヲ論ジテヤ  
ラナケレハ之ヲ擊攻スルノミニシテハ餘リ慘イト思フ實ニ私ノ考デハ今日日  
本銀行ト云フモノハ餘程我邦ノ爲メニ財政ノ發達ヲ助ケテ居ルモノト思フ實  
ニ日本ノ爲メニ取ツテ秘藏ナ娘ト云ツテ宜イ極ク日本ノ秘藏娘デアツテ誠ニ  
此日本銀行ト云フモノハ可愛ガツテヤラナケレバナラヌ所ノモノデアアル其理  
由ト云フモノチ是レカラ段々ト御話シ申シマス  
第一ニ日本銀行ハ今日通貨ヲ伸縮スル働キヲ爲スモノデアアル通貨ヲ伸縮スル  
ト云フ事ハドウ云フ事デアアルカト云フト貴君方ノ懷中ニ御持參ニナツテ居リ

マス所ノ銀貨デアアルトカ紙幣デアアルトカ申スモノガ丁度日本ニ多過キモセズ  
亦尠過キモセズ其適度ヲ得ルヤウニ日本銀行ガ舵ヲ取ツテ往カナケレバナラ  
ヌノデアアル此紙幣ナリ其外ノ通貨ノ働キヲ爲ス所ノ手形ノ類トイフモノガ其  
適度ヲ得ヌ時ニハ餘程世ノ中ヲ害スルモノデアアル定メシ諸君ノ中ニハ既ニ實  
際其事ニ御當リニナツタ御方モアリマセウガ明治十年ヨリ明治十九年マデノ  
間ニ紙幣ガ其適度ヲ得ナカツタ爲メニ非常ノ損チシタ事モアル又僥倖ニ德チ  
シタ事モアル詰ル所損チスル事ノ方ガ多クシテ我邦ノ經濟ヲ破リ我邦ノ財政  
ヲ損ツタ事ノ尠カラヌトイフコトハ御承知デアラウト思ハレマス所デ明治十  
五年ニ日本銀行ガ始メテ我邦ニ創立ニナツテ以來諸君ノ懷中ニアル所ノ札ガ  
多過キモセズ亦尠過キモセズ丁度日本ニ入用丈ケノモノヲ發行スル事チシテ  
居ル夫レハドウ云フ働キデシテ居ルカト云フト此日本銀行ニハ日本銀行條例  
ノ第十四條デ以テ日本銀行ハ兌換銀行券ヲ發行スルノ權ヲ有スト云フ事ガ認  
メテアル即チ法律ヲ以テ日本銀行ニ兌換銀行券ト申ス紙幣ヲ發行スル事ヲ許  
サレテアルノデ御座イマス此紙幣ヲ發行スル事ハ明治ノ初ニ於キマシテハ別



段ニ他ノ兩換屋デアルトカ銀行デアルトカ云フヤウナモノデ發行スル事ハナ  
 ラストイフ訓令ハナカツタノデアリマスガ明治五年ニ國立銀行條例ガ出來マ  
 シテ尙ホ其銀行條例ハ明治九年ニ改マツテ其國立銀行條例ノ第八十八條ノ中  
 ニ「何人ヲ問ハズ又如何ナル會社ヲ問ハズ紙幣若クハ紙幣ニ類シタル手形様ノ  
 モノヲ發行スルコトハ相成ラヌ、但國立銀行條例ニ據ツテ發行スル所ノ銀行紙  
 幣ハ此限ニアラズ」トイフ事ガ書イテアル、即チ明治九年ノ條例第八十八條ニ依  
 ツテ日本人タルモノハ最早紙幣ヲ發行スル事ハ一切ナラヌ獨リ紙幣ヲ發行ス  
 ル事ノ出來ヌノミナラズ紙幣ニ類シタル手形モ發行スル事ハ相成ラヌト云フ事  
 ニナツテ居ツタ、所ガ其國立銀行條例ト申スモノガ明治十六年ニ再ビ改正ニナ  
 リマシテカラニ此國立銀行ハ明治三十二年即チ國立銀行營業滿期ノ曉ニハ國  
 立銀行トシテ營業スル事ハナラヌ隨テ紙幣ヲ發行スル事モナラヌトイフ事ヲ  
 明カニシタ、夫レ故ニ今日ハ未ダ國立銀行ガ紙幣ヲ發行スル權ハ持ツテ居ル、ナ  
 レ共其權タルヤ既ニ明治三十二年ヲ以テ消滅スル事ヲ法律ヲ極メテアルカラ  
 先ヅ人民トシテ紙幣ヲ發行スル事ノ出來ルモノハ即チ日本銀行ノ外ニハ今日

日本全國中一ツモ無イ、然ラバ政府ハ紙幣ヲ發行スルカト申スト此政府紙幣ハ  
 明治元年ニ太政官札トイフモノヲ發行シテ以來段々其高チ増シテ遂ニ一億  
 二十萬圓餘マデ發行シタノデアリマスナレドモ是亦タ政府ガ紙幣ヲ發行スル  
 事ハ甚ダ宜シク無イトイフ事ノ議論ガ明カニナリマシタガ爲メニ明治十八年  
 ノ六月ニ第十四號ノ御布告ガ出マシテ其御布告ニ依ツテ見ルト明治十九年一  
 月一日カラ政府ハ漸時銀貨ヲ以テ紙幣ト交換スルト云フ事ニナツテサウシテ  
 政府ノ紙幣ハ將來ニ於テ其跡ヲ絶ツテ一枚モ市上ニ流通スル事ノ無イト云フ  
 コトハ法律ガ極メテ即チ一方ニ於テハ國立銀行第八十八條ヲ以テ人民ノ紙幣  
 ヲ發行スルコトヲ禁ジ、一方ニ於テハ政府ガ紙幣ヲ發行スル事ヲ止メマシタ故  
 ニ今日ハモウ日本銀行ヨリ外ニ紙幣ヲ發行スル所ハ無イト言ツテ宜イ、未ダ今  
 日ハ政府ノ紙幣ガ流通シテ居ルケレ共是レハ數年ナラズシテ悉ク消滅ニ歸シ  
 テ仕舞フモノデアル、夫レデ此日本銀行トイフモノガ紙幣ヲ發行スルニ就イテ  
 ハドウ云フ約束デ以テ發行スルカト云フニ夫レハ又兌換銀行條例ト申スモノ  
 ガアリマシテ其條例ニ據ツテ紙幣ヲ發行シテ居ル、其紙幣ヲ發行シテ居ルノニ



金銀貨幣ヲ準備ニスルナラバ幾億萬圓タリ共無制限ニ發行スル事ハ宜シイ併  
 ナシカラ金銀ノ引當ナシニ只銀行ノ信用ヲ以テ發行スル分ハ八千五百萬圓ヨ  
 リ餘分ニハ發行スル事ハナラヌトイフ事ガ書イテアル即チ日本銀行ハ八千五  
 百萬圓マデハ金銀ノ引當ナシニ信用ヲ以テ紙幣ヲ發行スル事ガ出來ルノデア  
 ル併ナカラモウ一箇條アリマシテ八千五百萬圓ノ信用發行ノ紙幣ヲ使ヒマシ  
 テ尙ホ不足スル場合ニ於テハ日本銀行ハ政府ニ請求シテ八千五百萬圓ヲ超過  
 シテ紙幣ヲ發行スル事ガ出來ルナレ共此場合ニ於テハ一箇年五分以上ノ利子  
 ナ政府ニ拂ハナケレバナラヌ即チ八千五百萬圓マデハ別段政府へ納メル物ナ  
 シニ發行ガ出來ルガ夫レヨリ以上ニナルト一箇年五分以上ノ利子ヲ納メナケ  
 レバナラヌ即チ發行稅デスサウ云フ事ニナツテ居ル夫レデ此八千五百萬圓ト  
 云フモノハ諸君ガ能ク御注意ナサラナケレバナラヌト申スモノハ凡ソ金銀貨  
 幣ト申スモノハ是レハ自然ニ放任シテ置キマシテモ多イ所カラハ出テ往キ尠  
 イ所ニ集マルモノデアルト申スノハ金銀ノ貨幣ハ多過キレバ直段ガ下ガル直  
 段ガ下ガレバ直段ノ宜イ所へ出テ往ク又金銀ガ尠クナレバ直段ガ上ル直段ガ

上レバ其所へ金銀ガ集ツテ往クモノデアル然ル所ガ八千五百萬圓ト申ス紙幣  
 ハ全ク信用ヲ以テ發行スル所ノモノデアリマスカラシテ別ニ金銀ト云フ引當  
 ハ無イ引當ガ無イノガ即チ紙幣ノ最モ效用アル所デアリマスカラ金銀ノ不足  
 シタ時ニハ八千五百萬圓ヲ以テ補ヒ金銀ガ餘ツタ時分ニハ之ヲ流通ヨリ引去  
 ル夫レダカラ金銀トイフモノヲ失フ事ナシニ通貨トイフモノハ平準ヲ保ツテ  
 往クコトガ出來ルソコデ日本銀行ハ即チ八千五百萬圓マデハ引當ナシニ紙幣  
 ヲ發行スル事ガ出來ル故ニ若シ金融場裡ニ於テ一般ニ逼迫シテ來テ非常ニ利  
 子ガ高クナツタ時分ニハ八千五百萬圓一杯ニ發行スル若シ金融ガ現時ノ如ク  
 緩慢ニナリマシテ利子ガ下ツテ來ル時分ニハ八千五百萬圓ヲ縮メテ往ク夫レ  
 デ以テ丁度伸縮シマスカラ諸君ノ懷中ニ於テハ貨幣ト云フモノガ多過ギモセ  
 ズ尠過ギモセズ丁度適當ヲ得ルノデアアル即チ通貨ヲ伸縮スル事ガ日本銀行ノ  
 一ノ大ナル役目デ此通貨ノ制度トイフモノガ若シモ亂雜デアラナラバ一國ノ  
 經濟ハ立チマセヌ即チ論ヨリ證據明治十一年ヨリ十九年マデニドレ丈ケ日本  
 デ破産ナスル者ガアツタカ又ドレ丈ケ經濟ノ發達ヲ妨ゲタカトイフ事ヲ見レ



ハ分ル事デアル、今日ノ如ク通貨ノ適度ヲ得テ多過キモセズ、少過キモセズ、極ク當チ得テ居ルカラシテ諸ノ商業家ナリ、工業家ナリ、農業家ナリ、ガ安全ニ商賣ヲ營ンデ往々事ガ出來ルサウ云フ通貨ヲ伸縮スルノ働キニ就イテハ實ニ容易ナラヌ所ノ關係ヲ持ツテ居ル、

第二ニハ日本銀行ト申スモノハ正貨ヲ吸收スル働キヲ爲ス即チ金銀ノ貨幣トイフモノヲ集メルノ働キヲ爲ス、夫レハドウ云フモノデアルカト云フト此日本銀行デハ金銀ヲ引當ニシテ紙幣ヲ發行スル事ガ出來マスカラシテ金銀ヲ持ツタ人ガドウシテモ金銀ヨリハ札ノ方ガ便利デアリマスカラシテ日本銀行ヘ金銀ヲ預ケテ札ニ替ヘテ貰フ、サウスレバ第一旅行スルニシテモ遠方ヘ送ルニシテモドウモ金銀ノ貨幣デアルト重クツテ仕方ガ無イ併ナカラシ日本銀行ノ紙幣デアレバ百圓デモ千圓デモ誠ニ輕イモノデアル夫レ故ニ皆金銀トイフモノヲ日本銀行ヘ預ケテ日本銀行カラハ輕イ札ヲ貰ツテ居ル、夫レデ日本銀行ノ倉庫ニハ自然ト金銀ガ集ツテ今日デハ既ニ六千萬圓カ七千萬圓近クモ金銀トイフモノガ日本銀行ノ倉庫ニ集ツテ居ル、是レハ日本中ニ金銀ヲ撒キ散サズニ日本銀行



賣捌所

東京麴町區上六番町

日成堂

同 京橋區尾張町

東海堂

同 本郷區元富士町

解明堂

同 神田區錦町

武藏屋

同 神田區一ッ橋通リ

有斐閣

同 神田區錦町三丁目

朝陽堂

麻布區永坂町五拾壹番地

旭堂

明治二十六年二月二日印刷  
明治二十六年二月三日出版

定價拾錢

發行番地 東京市神田區今川小路二丁目十四番地  
印刷者 高橋捨六

編輯者 濱田健次郎

東京市小石川區下富坂町十七番地

發行所 特別認可 私立專修學校